



令和4年度

大学入学者選抜における 好事例集



令和5年5月
文部科学省高等教育局



目次

はじめに	4
令和4年度大学入学者選抜における好事例の選定結果について（選定委員会所見）	5
別添 大学入試のあり方に関する検討会議（令和3年7月8日提言）（抄）	6
【一般選抜】	
宮城大学「一般選抜」 選定区分： イ	7
青山学院大学「社会情報学部入試（個別学部日程D方式）」 選定区分： オ	10
明治大学「学部別入試（英語4技能試験活用方式）」 選定区分： ア	12
信州大学「一般選抜」 選定区分： イ	14
中村学園大学「グローバル人材育成選抜」 選定区分： ア	16
【一般選抜及び総合型選抜】	
東北大学「一般選抜／AO入試Ⅱ期、Ⅲ期」 選定区分： イ	18
【総合型選抜】	
青山学院大学「全国児童養護施設選抜」 選定区分： ウ	20
工学院大学「探究成果活用型」 選定区分： エ	22
東京女子大学「知のかけはし入学試験」 選定区分： ウ	24
東京都市大学「学際探究入試」 選定区分： ア	26
創価大学「PASCAL入試」 選定区分： イ	28
産業能率大学「キャリア教育接続方式」 選定区分： エ	30

目次

新潟大学「総合型選抜（理系科目／文系科目選択型）」	選定区分： イ	32
神戸大学「『志』特別選抜」	選定区分： イ 工	34
【学校推薦型選抜】		
芝浦工業大学「公募制推薦入学者選抜（女子）」	選定区分： ウ	37
横浜市立大学「特別公募制学校推薦型選抜」	選定区分： イ	39
熊本県立大学「特別選抜“くまもと夢実現”学校推薦型選抜」	選定区分： ウ	41
【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】		43

※選定区分：

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
工	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
才	文理融合の推進やその他の好事例

本件担当

文部科学省高等教育局
大学教育・入試課
大学入試室入試第四係



連絡先

TEL : 03-5253-4111
(内線4915,4757)
MAIL:
nyusichosa@mext.go.jp

事例集作成の目的

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議提言」においては、記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れなどについて、他大学の模範となる先導的な取組を推進するため、客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表することが提言されています。
- これを踏まえ、文部科学省において、令和3年10月に「大学入学者選抜における好事例選定委員会」を設置し、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善を一層促進する観点から、令和3年度版の試行的な選定に引き続き、他大学の模範となる好事例を選定し、本事例集を取りまとめました。

好事例の選定方法

調査対象

国公立大学
& 短期大学

回答大学数

延べ704大学・短期大学

選定件数

17件

- 各大学から好事例と考えられる取組について記載いただいた令和4年度大学入学者選抜実態調査の回答をもとに選定委員会において審査を実施しました。
- 詳細については、次ページの選定委員会所見をご覧ください。

Go

令和4年度大学入学者選抜における好事例の選定結果について（選定委員会所見）

- このたび、他大学の参考となり得ると考えられる取組を17件選定し、好事例集として取りまとめましたので、入試についてご検討する際の参考にしていただけますと幸いです。
- 選定方法としては、各大学から好事例と考えられる取組について記載いただいた令和4年度大学入学者選抜実態調査の回答（回答大学数：延べ704大学）をもとに審査を行いました。回答いただいた大学には深く感謝申し上げます。また、今回、特色あると思われる取組であっても、提出された書面上から十分に内容を把握できなかったこと等により、残念ながら選定に至らなかった取組が多数ございましたが、いずれの大学も様々な工夫に取り組まれていることがうかがえ、入学者選抜に対するご努力やご熱意に対し敬服する次第です。
- さて、選定にあたっては、令和3年度版の試行的な選定に引き続き、「大学入学者選抜のあり方に関する検討会議提言（R3.7.8文部科学省）」（別添参照）を踏まえ、特に推進が求められている

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
オ	文理融合の推進やその他の好事例

を選定の対象項目として設定しました。



- また、左記の項目について、学力の3要素を適切に評価・判定するとともに、高校での学びを大学での学びに繋げていくような入試が行われているかという視点から、例えば、

- 求める能力や測定方法を明示し、受験生に対して、高校でどのような学習や活動をすればよいのか分かりやすく説明しているか
- 求める能力を実際に測定できていることを示す検証結果（エビデンス）があるか
- マンパワー等を含めて無理なく継続できる体制・仕組みとなっているか
- 新規性・先進性（従来の取組の発展形を含む）があり、他大学の参考となり得る工夫が見られるか
- 入試だけでなく入試前後の教育を含め、高校での学びから入学後の学びまでが有機的に繋がっているか

等といったことが重要であると考え、これらを含めて選定の観点を設定しつつ、試行的な選定の経験も踏まえ見直しも行いました。

- さらに、令和4年度版においては、各大学が調査に回答しやすくなるよう調査項目の見直しを行いつつ、その調査内容を好事例集にも反映させることなどにより、好事例集の内容の充実を図りました。特に、学内検討のスケジュールや、実施に当たって課題となったこと及びその解決策、選定された取組により入学した学生及び担当教員のインタビューも掲載することで、大学関係者により実感をもって伝わるよう工夫しました。
- 本事例集を入試について検討する際の参考にしていただくことで、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善の一助となることを期待しています。

第5章 ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜

5. 大学入学者選抜の改善に係る実施・検討体制

(2) 文部科学省による選抜区分ごとの大学入学者選抜実態調査の定期的実施・公表・分析

- 本検討会議は、選抜区分ごとの詳細な実態調査を行い、データに基づく丁寧な議論を行ってきたが、第1章で整理したように、今後もデータやエビデンスを重視した意思決定を行うことが重要であり、そのためには普段より実態を調査しておくことが必要である。このため、今般実施したような文部科学省による大学入学者選抜の実態調査については、大学の負担にも留意しつつ、大学入試政策立案の基礎的な資料として、専門家の助言に基づき、定量的な把握の充実を含めて調査票の改善を図りつつ、大規模な調査を定期的に行うとともに、特に必要な調査は毎年度実施することが適当である。

(3) 大学入学者選抜等の改善に係る好事例の公表及びインセンティブの付与

- これまで述べてきた記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れ、入学後の教育との連動や文理融合等の観点からの出題科目の見直し、入学時期や修学年限の多様化への対応など、大学入学者選抜と大学教育の一体的な改革については、他大学の模範となる先導的な取組を推進することが重要であり、ペナルティを課するという方法ではなく、積極的な取組を促進・評価する観点から、推進策を講じる必要がある。
- このため、既に述べたように、上記（2）で把握した客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表するとともに、認証評価や高等教育の修学支援新制度の機関要件に係る教育活動の情報公表、大学ポートレート等の既存の様々な枠組みにおいても、大学入学者選抜の改善状況や優れた取組が適切に公表され、社会から評価される方策を講じることが有益と考えられる。
- さらに、上記の好事例の認定も適切に活用しつつ、インセンティブの付与を検討すべきである。例えば、国立大学については、第4期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方についての検討状況も踏まえ、優れた取組も促進・評価することができるよう検討するべきである。私立大学については、私学助成のうち、特色ある取組や大学改革を推進する支援スキームを活用し、評価項目の見直し等により、他の模範となる優れた取組を促進することを検討するべきである。また、公立大学については、好事例の認定結果を設置者や設立団体に対し、法人（大学）評価や資源配分の参考に活用することができる旨通知することを検討するべきである。

宮城大学「一般選抜（記述式総合問題『論説』の出題）」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 「読解」「情報分析及び活用」「表現」の観点からなる記述式総合問題『論説』の出題
- 高等学校等での課題探究型学習の成果を評価し、入学後教育への効果的な接続を図る

参照：宮城大学ウェブサイト「学群入試情報」
<https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜

対象学部：①看護学群／②事業構想学群

募集人員：①58人（学群全体の61%）
／②120人（学群全体の60%）

入学者数：①63人（志願倍率4.2倍）
／②127人（志願倍率5.1倍）

【選抜方法】

- 一般選抜の個別学力検査で**記述式総合問題『論説』**を出題。検査時間は90分。「資料をもとに科学的に読み解く力」や「事象を論理的に考察する力」等を多角的に評価し、点数化（看護学群150点、事業構想学群100点）する。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 学習指導要領の改訂により、新たな教育課程では知識を使って考えたり、判断したり、表現する力を身につけることが重視され、教科を横断して問題を探究する、より実践的な学びが進められると想定される。
- これを踏まえ、基礎学力のほか、高等学校等での課題探究型学習の成果「得られた事象や情報を整理・分析し（思考力、判断力）、概要にまとめ、論述する力（表現力）や態度が身につけている」を評価すべく、「**読解」「情報分析及び活用」「表現」の観点からなる記述式総合問題『論説』**を導入した。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 大学教育を通じ、「高い人間力を備え、広く深く学び続ける力を基盤として、専門的な知識や技能を身につけ、将来にわたって地域社会の進歩に柔軟に対応し、それに貢献できる能力を備えた人材」を育成するとし、入学者に求める能力に、高等学校等までの「偏りなく幅広く、継続した学習」の内容をしっかりと身につけていることを挙げている。
- 『論説』では、探究活動で培われる「偏りなく幅広く、継続した学習」の内容を身につけていることを評価する。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 『論説』は、複数の教科を総合的に活用する「読解」「情報分析及び活用」「表現」の観点からなる記述式の問題であり、従来の小論文ではカバーできない**探究活動で培った力、特に論拠を見出して論理的に思考し、とりまとめる力**を評価する点が特色である。
- 公益財団法人大学基準協会が実施した大学評価においても、高等学校等までの学習成果や課題発見・解決能力等を評価するための科目の導入として評価を得ている。

取組を実施する体制

- 問題作成、採点に労力を要するため、**作題や採点マニュアルの整備、ルーブリックの導入等**により多くの教員が運営に携わる仕組みを整え、実施している。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 既知の知識を問うものではなく、思考力、判断力、表現力を評価するための問題としての妥当性の確保、適切な難易度の設定と識別力の確保、過年度の傾向に偏らない出題等、**問題作成にかかる労力**が課題。
- また、記述式であるため、**採点及び評価の信頼性の確保にも労力**を要し、客観性をもって判断できるように**ルーブリックの精緻化**に努めた。
- アドミッションセンターを中心として、**作題から採点・評価まで一貫して管理できる仕組みと体制**を整えた。

負担軽減の工夫

- 作題や採点等の体制強化、作題や採点マニュアルの整備、ルーブリックの導入や精緻化等により多くの教員が運営に携われるような仕組みを整える等の改善を進めている。

宮城大学 記述式総合問題『論説』 出題例（令和4年度 宮城大学看護学群及び事業構想学群 一般選抜前期日程）

あなたのクラスのイズミさんは、祖母が暮らす地域において空き家が多くなっていることに関心をもち、日本の空き家の問題を調べることにした。次の問1～問3に答えなさい。

問1 イズミさんは、本やインターネットから空き家に関する資料を集めた。まず、資料から空き家には4つの種類があることを知り、それぞれの空き家の特徴を次の資料1にまとめた。さらに、祖母が暮らす地域で増えている空き家の多くが、資料1の「その他の住宅」の空き家であることを知ったため、「その他の住宅」の空き家に注目して詳しく調べることにした。資料2～資料4から読み取ることができる「その他の住宅」の空き家の特徴を、他の種類の空き家との違いを明確にしながら300字以内でまとめなさい。

⇒ねらい：図を正確に読み取り、適切に事象を理解し、「その他の住宅」の空き家の特徴を、他の種類の空き家と比較しながら簡潔に文章にまとめる力をみる。

問2 次にイズミさんは、各地で「その他の住宅」の空き家が増えている原因や、それに伴って生じる問題を調べるため、文献の資料5～資料8を集めた。これらの資料に基づき、次の問いに答えなさい。

(1) 「その他の住宅」の空き家が発生する原因を読み取り、150字以内でまとめなさい。

(2) 「その他の住宅」の空き家が発生することに伴って生じる問題を読み取り、150字以内でまとめなさい。

⇒ねらい：複数の文章の内容を把握し、読み取った内容を与られた視点から再編し、簡潔に文章でまとめる力をみる。

問3 イズミさんの祖母が住む自治体では、一軒の「その他の住宅」の空き家を改修して活用することになり、その案を募集していた。このことを知ったイズミさんは、あなたやクラスの友人に呼びかけ、グループを作って応募することにした。グループ内で議論した結果、応募する案は、資料9に挙げたX～Zの三つに絞られた。次に、グループ内の各人がこの案の中から一つを選び、その案の良し悪しを確認するために、新たに資料を集めることになった。

あなたならどの案を選び、新たにどのような資料を集めるか。あなたが選ぶ案の記号一つと新たに集める資料三つを挙げなさい。さらに、それぞれの資料について、挙げた理由を述べなさい。あわせて400字以内で述べなさい。

⇒ねらい：選択した案を実現しようとする実際の場面を想定し、高等学校での学習や自身の経験と関連付けながら、多様な視点から直面するであろう課題を見出し、解決への筋道を考察し、それらを論理的に文章にまとめる力をみる。

宮城大学「一般選抜（記述式総合問題『論説』の出題）」

- 「読解」「情報分析及び活用」「表現」の観点からなる記述式総合問題『論説』の出題
- 高等学校等での課題探究型学習の成果を評価し、入学後教育への効果的な接続を図る

参照：宮城大学ウェブサイト「学群入試情報」
<https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/>

学内検討のスケジュール

- 平成27年4月：
大学改革に伴う平成29年度入学者選抜からの入試制度改革の検討を開始
- 平成27年7月：
入試制度改革の骨子策定（一般選抜個別学力検査への『論説』の導入を盛り込む）
- 平成27年9～10月：
入試制度改革に向けて高等学校等のステークホルダーへのヒアリング、説明会等を実施
- 平成27年11月：
平成29年度入学者選抜方法を公表
- 平成27年12月：
『論説』の設計の具体化及び公表例題の作成
- 平成28年3月：
『論説』の概要及び例題を公表
- 平成29年2月～：
一般選抜個別学力検査で『論説』を出題

入学後教育との連結方策

- 変動的で複雑化する社会経済情勢を踏まえ、平成29年度から「明日の姿を見通す能力」の習得に必要な「広く深く生涯学び続ける力」、「主体的に学ぶ力」を育む基盤教育を1・2年次に配置。
- 基盤教育には、**技法知・学問知・実践知を養う「フレッシュマンコア科目（※）」**に加え、「芸術・人文学」、「人間科学」、「社会科学」、「グローバルコミュニケーション」、「自然科学」などの科目群があり、これまで人類が蓄積してきた知を俯瞰し、掘り下げていくとともに、大学で学んでいく専門領域へと繋がる科目が開講されている。

※ディベートの手法や地域の課題発見・解決に取り組む手法、ライティングなどの様々なスキルや論理的思考法、実践を通じたコンピュータ活用や統計学のエッセンスを学ぶ。

- 『論説』で問う「与えられた事象や情報を的確に把握する力」、「その中から必要なものを抽出・分析する力」、「課題を見出し、その解決への道筋を考察し、論述する力」は、「つかむ → 見通す → 解決する → 振り返る」= 課題探究型学習の成果と捉えることができ、これは「フレッシュマンコア科目」での学びにおいて必要な素養となることから、『論説』は、**1・2年次に配置している基盤教育との連続性を重視した出題科目**となっている。

取組の成果の検証結果

- 令和4年度一般選抜入学者の「フレッシュマンコア科目」などの基盤教育が中心となる1年次前期のGPAを確認すると、GPA上位25%の学生はGPA下位25%の学生より『論説』の得点が高い傾向にあった。
- 一般選抜受験者の科目間の得点率の相関を調べた結果、『論説』とその他の個別学力検査出題科目及び大学入学共通テスト利用教科・科目との間に高い相関は見られなかった。
- これらから、**課題探究型学習の成果を評価するとともに、単に基礎学力だけでなく、別の観点からも入学者を選抜できていることが示唆される。**
- 高等学校等へのヒアリングにおいては、『科目設定に違和感はなく、「得られた事象や情報を整理・分析し（思考力、判断力）、概要にまとめ、論述する力（表現力）や態度が身につけている」かどうかを評価したいという、大学側のメッセージが伝わる。』等、好意的な意見を頂いており、**文理問わず、科学的な思考力、分析力を重視する本学の姿勢**と、本学がこれらの力を「今後の社会において必要な能力」として捉えていることが浸透しているものと思われる。

- 他方、問題傾向の固定化による「対策慣れ」についてのご指摘も頂いていることから、高等学校等で取り組む課題探究型学習の成果を評価する出題科目となるよう、引き続き、改良していきたいと考えている。

好事例選定委員会委員コメント

- 高等学校等での学習の成果として、「**得られた事象や情報を整理・分析し（思考力、判断力）、概要にまとめ、論述する力（表現力）や態度が身につけている**」ことについてよく考えながら出題がされており、アドミッションセンターのリーダーシップで運営も適切に行われている。
- 高等学校の探究的な学習の内容とつながるものであり、**思考力・判断力・表現力を評価する問題として妥当**である。作問や採点には労力がかかると思われるが、高校と大学の学びを接続させる意味においては、他大学のモデルになるはずである。**小論文だけを課していた従来の出題より、思考力や判断力を丁寧に評価している。**
- 複数の課題文や図表等のデータを読み取り、情報を分析し、文章にまとめる力は、高校の探究的学習の成果を測るものである。また、『論説』に求める情報を分析する力や課題を見出す力は、入学後の「基盤教育」なる教養科目において必要な課題発見・解決する学修に接続する力となっている。

宮城大学「一般選抜（記述式総合問題『論説』の出題）」

選定区分： **イ** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 「読解」「情報分析及び活用」「表現」の観点からなる記述式総合問題『論説』の出題
- 高等学校等での課題探究型学習の成果を評価し、入学後教育への効果的な接続を図る

参照：宮城大学ウェブサイト「学群入試情報」
<https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/>

- アドミッションセンター副センター長兼高大連携推進室長 笠原 紳（かさらはしん）氏（左）
- 高大連携推進室副室長 高橋 信人（たかはし のぶと）氏（右）へのインタビュー（役職はインタビュー時のもの）

【当該教科を導入することになった背景は何か。】

当該教科の準備にとりかかった平成 27 年の時点で、高校学習指導要領の改訂により令和 4 年度から「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変わることがわかっていました。本学では、平成 27 年度に導入した学群・学類制に合わせて入試改革を行い、間近に迫った高校学習指導要領の変更を一部先取りして、「総合的な探究の時間」で培われる能力を評価する入試として A O 入試（現総合型選抜入試）及び一般選抜入試における新教科である『論説』を導入することとしました。『論説』では、従来の小論文ではカバーできない、探究活動で培った力、特に論拠を見出して論理的に思考し、とりまとめる力を評価します。



【当該教科の特徴は何か。】

「ある課題に自身が対峙したときにどうすべきか」という探究活動の臨場感が出る問いの構造にしています。探究活動にしっかり取り組んできた受験生、特に資料からどこまでを事実と認識して課題を整理することができるか、立場や視点の違いによってどのように見え方が変わるか、それらを根拠にするとどのようなことが推察できるか、ということを身近な事象を題材に日頃から考えている受験生であれば、答えやすい問いの作りとなっているようにしています。

【当該教科の導入・運用にあたって、高等学校関係者のニーズをどのように把握したか。】

高校教員の経験をもつ特任教授の方に当該教科の創設に直接関与していただきました。また、教科の概要を高校関係者や受験生を対象とする入試説明会等にて説明し、質問等を受け付けました。実施後5年を経た令和3年度には、宮城県内の高校を中心に当該教科について聞き取りを行い、現在も今後の改良に向け検討を進めています。

【当該教科の導入にあたって工夫を要した点は何か。】

当該教科の評価規準の一つである「課題を見出し、高校での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながら、その解決への筋道を考察し、それらを論理的にまとめる能力」を測るための問題作り、評価基準作りには非常に苦勞しました。この部分は当該教科『論説』の目玉であり、受験者の学習経験に基づく視点やアイデアを引き出したい部分でもあって、とすれば自由解答となってその振れ幅も大きくなりがちなため、採点者にとっても迷いにくいルーブリックの構築、解答がぶれにくい問いかけ方の検討にじっくりと時間をかけています。

- 文理融合系学部の特徴を生かした文理融合型の総合問題を出題
- 入学後に文理融合の複数領域を学ぶ資質を評価できる入試を実現

参照：入学者選抜情報サイト
<https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜
 対象学部：社会情報学部
 募集人員：約15人(学部全体の約7%)
 入学者数：9人(志願倍率約12.7倍)

【選抜方法】

- 学部独自問題と大学入学共通テスト(国語または地理歴史または公民、外国語)の成績を組み合わせた選抜形態で実施。**文理融合系学部として実施する文理融合の要素を持つ学部独自問題(総合問題)では、現代的な問題に関する文章や統計データから必要な情報を読み取り、物事を論理的に考察する力、考察した結果を説明する的確な表現力を評価。**

取組の理念、背景にある課題意識等

- **入学後の文理融合の学びにつながる入試方式を実現する**ということがD方式による入学者選抜を始めた背景となっている。
- 入学後にミスマッチを起こすことを極力減らすためには、社会的な課題への関心、数理的な思考の評価、適切な表現力、読解力といった、複合的な資質を一つの方式の中で評価することが必要であると考えたため、**文理融合系学部の特徴を生かした文理融合型の総合問題を出題し、入学後に複数領域を学ぶ資質を評価できる入試を実現した。**

アドミッション・ポリシーとの関係

- 知識・技能：国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- 思考力・判断力・表現力：物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをまとめることができる。
- 意欲・関心・態度：学科の特徴を理解した上で、「人間、社会、情報」などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通して追求し、専門知識や専門スキルを活用して社会のために役立つ意欲がある。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 当該学部は**文理融合系学部として社会科学・人間科学・情報科学分野の教員構成となっている特徴を活かし**、独自問題(「総合問題」)の出題に関してはアドミッションポリシーを含む3ポリシーに基づく多様な視点での考察を測る出題形態を整えている。これにより、**出題内容は、統計資料やグラフ、データなどを多用した構成となっており、当該方式による入試において受験者のデータを読み解く力や数字を的確に捉える力などを評価する特徴的な形態となっていることが特色である。**

取組を実施する体制

- 記述式問題の採点にあたっては、当該学部が文理融合系学部として社会科学・人間科学・情報科学分野の教員構成となっている特徴を生かしつつ、学部全身体制で採点方法・基準を申し合わせのうえ採点を実施している。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 文理融合系学部である当該学部のアドミッションポリシーを含む3ポリシーに基づく多様な視点での考察を測る独自問題(「総合問題」)の出題形態とするため、当該学部の社会科学・人間科学・情報科学分野を含んだ教員構成による作問体制としている。

負担軽減の工夫

- 大学側の実施上の負担軽減策として、記述式と客観式の問題をバランスよく組み合わせた問題構成とすることにより、膨大な採点時間を要さずに多様な知識・技能・思考力・判断力・表現力を評価する内容としている。
- 採点者へのレクチャーを綿密に行うことにより、採点作業の適切化、効率化につなげている。

社会情報学部で養成する4つの力

技術が進歩しても色褪せない、あらゆる問題解決の基礎となる数理的素養

1
数理的要素

多様な人々・多様な分野をつなぐための語彙を駆使したコミュニケーション能力

2
コミュニケーション能力

FOUR POWERS

データ分析・プログラミングなど駆使した情報化社会における論理的思考力

3
論理的思考

コンピュータを活用した問題解決のデザインを行うシステム思考力

4
情報の高度な活用



青山学院大学「社会情報学部入試(個別学部日程D方式)」選定区分： **オ** 文理融合の推進やその他の好事例

- 文理融合系学部の特徴を生かした独自問題（総合問題）を出題
- 入学後に文理融合の複数領域を学ぶ資質を評価できる入試を実現

参照：入学者選抜情報サイト
<https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/>

学内検討のスケジュール

- 当該選抜方式は、令和3年度入学者選抜より実施している。以下のとおり検討の上実施した。
 - ・平成30年7月～12月：実施方針及び試験教科・科目の検討
 - ・平成30年12月：実施方針及び試験教科・科目の学外公表（二年前予告）
 - ・平成31年4月～令和元年7月：学科独自問題の出題意図・ねらい及び問題例示の検討
 - ・令和元年7月：学科独自問題の出題意図・ねらい及び問題例の学外公表
 - ・令和3年度入学者選抜より実施

入学後教育との連結方策

- D方式による入学者選抜（文理融合型の入試問題）を入学後の文理融合の学びや人材育成につなげている。入学後の学修においても、**文理融合の履修計画が立てられるカリキュラム体系**とするとともに、「**数学質問部屋**」「**プログラミング質問部屋**」等**文系コースで入学してきた学生にとっても人文社会系の素養に加え数理・情報の素養を持ち合わせることでできる学習支援体制を整えている。**

取組の成果の検証結果

- 当該入学者選抜での入学者の修学状況を踏まえて、当該入学者選抜における出願資格や募集人数等の改善を図っている。
- 現在、大学としてのIR担当部署において、入試と学修状況をデータでつなぎ、教育改善にフィードバックすべく、入学後の学修状況を分析しているところであるが、当該入学者選抜での入学者が、学科において中核的・リーダー的な存在として活躍が出来るかの観察に加え、修学成績や進路先の十分なデータ蓄積を行い、成果の検証を行っていくことが今後の取組課題となっている。

好事例選定委員会委員コメント

- 文理融合系学部である社会情報学部において、現代的な問題に関する文章や統計データから情報を読み取り、考察したことを表現する総合問題の作問が行われ、**入学後の学修内容と密接に関連した出題内容とすることで、ミスマッチを防ぐもの**となっている。

- 社会情報学部に加えて、経営学部、総合文化政策学部、国際政治経済学部、地球社会共生学部、コミュニティ人間科学部でも融合問題を出題しており、社会情報学部はじめ学部によっては文理融合型の入試問題となっている。共通テストとあわせて判定しており、他校の参考になる好事例と言える。

● 本入試担当教員インタビュー

【D方式創設の背景は。】

D方式入試は、入学後の文理融合の学びにつながる試験方式の検討を背景にしている。アドミッションポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力、意欲・関心・態度を評価したいという期待がある。デジタル化による新たな価値創出には、情報技術と人間活動を調和させる力が求められる。そのため、社会科学・人間科学と数理・情報の素養を併せ持つ人材育成が必要である。

入学後のカリキュラムでは、文系学生が理系分野を、理系学生が文系分野を履修できるカリキュラム体系にするとともに、「数学質問部屋」や「プログラミング質問部屋」などの学修支援体制も整備している。

【制度設計で苦労した点は何か。どのように克服したのか。】

制度設計の苦労として、社会、人間、情報という3つの領域への関心や入学後に複数領域を学ぶ資質を評価する問題設計が挙げられる。さらに、共通の素養として数理的素養、論理的思考、コミュニケーション能力、情報活用力をすべての学生に求めるため、D方式の設計ではこれらの資質を評価する問題が必要とされる。また、統計学が必修科目であるため、データやグラフから状況を把握する力やデータの読み方、論理の組み立て方を測る狙いもある。

社会現象における真の問題発見力を磨く部分では、経済学、経営学、社会学、心理学、学習科学などの分野を学ぶことから、社会的課題に対する関心や捉え方も選抜制度の設計ポイントとなる。D方式の問題作成には、社会、人間、情報の各領域に精通した専門家が不可欠だが、文理融合学部であるため、各領域の専門家が揃い、一般的に難しいとされる作問体制を整えることが可能だった。

もう一つの課題は、入試の選抜力を維持しつつ、採点に関する負荷を抑えることである。D方式の問題構成では、分量の多い課題文やグラフ、表などのデータを読む内容が含まれており、それらを読み取る力についてはマークシート方式で回答させることで、記述式回答の分量を抑えつつ表現力を評価する構成を採用している。これにより、選抜力維持と採点負荷抑制の課題を解決している。

採点作業においては、全員体制で取り組むことが求められる。この点での工夫として、採点者へのレクチャーにかなりの時間を割くことで、採点作業の適切化と効率化につなげている。綿密なレクチャーにより、採点者の理解が深まり、適切で効率的な採点が可能となっている。

【本入試のアピールポイントは何か。】

文理融合の学びの資質を評価するための問題となっている点の特徴だと考えている。入学後にミスマッチを起こすことを極力減らすためには、社会的な課題への関心、数理的な思考の評価、適切な表現力、読解力といった、複合的な資質を一つの方式の中で評価することが必要であるが、学部の教育課程を理解した、社会、人間、情報の各領域の専門家の尽力により実現できている。

明治大学「学部別入試（英語4技能試験活用方式）」

選定区分：ア 総合的な英語力の評価・育成

- 外部検定試験のスコアを出願要件及び加算に活用
- 入学後は「G R E A T」（グローバル経営人材育成トラック）等の国際プログラムを設定

参照：明治大学 一般選抜要項
<https://www.meiji.ac.jp/exam/information/guidelines/index.html>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜
対象学部：経営学部
募集人員：40人（学部全体の約5%）
入学者数：13人（志願倍率8.4倍）

【選抜方法】

- 出願資格として、英語資格・検定試験の所定の基準を満たすことが必要。
- 入試当日の「外国語」の試験を免除し、更に所定の基準を満たす者には、スコアに応じて他の科目の合計点に**加算**（20点又は30点）し、総合点で選抜。
- その**加算の基準は、総合スコアのみならず4技能毎のスコアも、各試験に応じて設定**。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 経営学部が目指すべき人材像のひとつに「複眼的視点をもって、ローカルからグローバル、営利から非営利にわたる幅広い経営課題を発見・解決する「**グローバル経営人材**」を掲げているが、グローバル社会で活躍できる人材となるためには英語などの語学力が必要となる。
- 入学者選抜段階において英語4技能について一定のレベルの実力を備えた学生を獲得することを学部として目指すことになった。

アドミッション・ポリシーとの関係

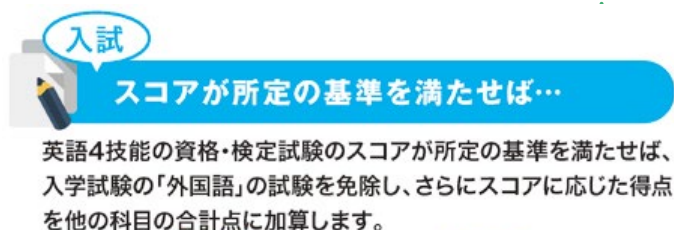
- アドミッション・ポリシーにおける求める人材像として、「**高い外国語能力を獲得してグローバル社会で活躍したい者**」を掲げている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 英語資格・検定試験のスコアを出願資格又は得点加算に活用。その加点の基準は、総合スコアのみならず4技能毎のスコアも、各試験に応じて設定。
- また、将来海外留学や国際ビジネス分野での活躍を目指すためのカリキュラムである「**G R E A T**」（グローバル経営人材育成トラック）、海外の大学とのデュアルディグリー・プログラム、英語による授業科目、海外フィールドスタディ、学部独自の短期留学制度、学部間協定校への交換留学など、学生が国際的に活躍できる能力を身につけるための学修機会を提供。

取組を実施する体制

- 英語4技能試験活用方式単願者は、外国語の試験が免除となり試験終了の時間が異なる。そこで外国語の試験も受ける受験生との混同を避けるため、受験教室を別に設けている。
- また、3科目方式とは別に合否判定を行っている。



入試当日は「国語」「地理歴史、公民、数学」の2科目を受験

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 外部検定試験のスコアに応じて加点（0点・20点・30点）をしているが、その処理の際に総合スコアのみならず4技能のスコアも満たすべき条件に入れているため、確認に手間がかかる。
- 解決策として、**表計算ソフトウェアで判定のための関数を設定**し、自動的に判定結果が出るようにした。また、近年は**当該処理を外部委託**している。

負担軽減の工夫

- 上記外部委託による事務処理の軽減。



明治大学「学部別入試（英語4技能試験活用方式）」

選定区分：ア 総合的な英語力の評価・育成

- 外部検定試験のスコアを出願要件及び加算に活用
- 入学後は「G R E A T」（グローバル経営人材育成トラック）等の国際プログラムを設定

参照：明治大学 一般選抜要項
<https://www.meiji.ac.jp/exam/information/guidelines/index.html>

学内検討のスケジュール

- 平成26年12月 学部内委員会で発議
- 平成27年7月 教授会で承認
- 同月 大学ウェブサイトで実施公表
- 平成28年4月 大学ウェブサイトでスコア基準公表
- 平成29年度入試から実施

好事例選定委員会委員コメント

- 学部が教育目標とする「グローバル経営人材」の育成と輩出に即した入試になっており、英語資格・検定試験の得点を評価する仕組みをつくとともに、入学後も同入試合格者を対象とした授業を用意している。今後は、**英語資格・検定試験の評価が妥当性を持っていたかなどの検証を公表することが望まれる。**

- 英語資格・検定試験での加点事例は多くの大学で実施しているが、英語4技能をアドミッションポリシーにあわせてわかりやすく得点化しているのが評価できる。**大規模私大の一般選抜でも取り組める形を示している点も大きい。**

入学後教育との連結方策

- 「G R E A T」（グローバル経営人材育成トラック）の少人数クラスで実践的な英語スキルを伸ばさせ、英語で専門知識を学べるようになる仕組みを設けている（任意参加）。
- 海外の大学とのデュアルディグリー・プログラム、英語による授業科目、海外フィールドスタディ、学部独自の短期留学制度、学部間協定校への交換留学などを提供。

取組の成果の検証結果

- 「G R E A T」（グローバル経営人材育成トラック）は、英語4技能試験活用方式での合格者を中心に構成されているが、そのトラックの修了生が令和元年度：7名、令和2年度：9名、令和3年度：13名と順調に数を伸ばしている。
- また、学部独自の短期海外プログラムにも計8名が参加し修了。

- 本選抜創設の中心となった 山下佳江（やました よしえ）専任教授へのインタビュー

【当該選抜の制度設計で苦労した点は何か。どのように克服したのか。】

本学部が求める入学者を選抜する上で外部試験の導入が妥当か、定員を何名にするかの議論に始まり、英語4技能資格・検定試験のスコア基準・基準級及び加点方法等、具体的な制度設計に至るまで、様々な意見がありました。検討を始めてから一連の検討終了・公表まで約1年半の期間を要しましたが、他大学の方法も調査し、論点を整理しながら各会議体でじっくりと検討しました。具体的な制度設計においては、導入以前の入試結果、GREAT学生のTOEFLデータ、及び各資格・検定試験における更新情報等を詳細に分析し、決定しました。

【当該選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について】

本学部が2015年度から開始していたGREATは、1年次から英語スキルを身につけながら英語で専門知識を学ぶ4年間の特別カリキュラムであり、当該選抜を経て、4技能について一定の英語力を備えた入学者の受け皿として、十分に対応できるカリキュラムとなっています。GREATへの参加は必須としていませんが、当該選抜により入学しGREATに参加している学生は、既に一定基準に達している英語4技能を発揮して授業の中でも中心的な役割を果たし、周囲の学生に良い影響を与えています。

【今後、新たな選抜を制度設計する他大学の担当教員に向けたアドバイス】

当該選抜を制度設計する際には、本学部がどのような人材像を目標とするかを明確にする必要がありました。人材像が明確でなければ、新たな選抜を行うことはもちろん、細部の具体的な制度設計においても、合意には至らなかったと思います。そして、当該選抜に適した入学後のカリキュラムが既に整っていたことも導入の大きな後押しとなりました。高大接続の体制を整えるために、入学後のカリキュラムと連携した入学者選抜を実施すること、さらに、そのことが高校生にも伝わるようにメッセージを発信していくことが今後ますます必要になっていくことと思います。

【当該選抜の創設の過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したか。】

グローバル社会で活躍できる人材の養成という社会的ニーズに応えるべく、本学部では以前から英語力測定や留学準備等に英語4技能資格・検定試験を活用していましたが、特に2015年以降、有識者による学内講演会、TEAP連絡協議会への参加、日本英語検定協会による情報提供等により、高等学校までの英語教育と英語4技能資格・検定試験の動向を把握しました。また、本学の入学センターを通じて大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会等の情報提供を受けながら、同センター主催の勉強会においても学内での情報共有と意見交換が進められ、以後の検討の参考となりました。

信州大学「一般選抜」

- 大学入学共通テストで測りにくい能力を総合問題により適切に判定
- 教科の知識を横断する、総合的な教養と批判的思考能力・表現力を問う

参照：信州大学人文学部 一般選抜・前期日程
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prospective/department/first-schedule.php>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜（前期日程）
対象学部：人文学部（人文学科）
募集人員：135人
入学者数：146人（志願倍率2.9倍）

【選抜方法】

- 大学入学共通テスト（3教科3科目又は3教科4科目又は3教科5科目）、個別学力検査試験問題（総合問題）及び調査書にて選抜

取組の理念、背景にある課題意識等

- 人文学部の教育目標は、専門領域についての深い知識と領域横断的な課題を解決する能力を兼ね備えた人材、即ち、「**実践知**」を基盤に人間に関わる様々な事象に対し**批判的思考力を駆使することのできる人材の育成**である。
- 総合問題を導入する背景として、授業科目の出席率や成績は良いものの、演習での発表・討論、長文のレポート・卒業論文の作成能力の乏しい学生が多いこと等の問題意識があった。
- 上記を踏まえ、高校の教科の枠を横断した多様な文献・資料を正確に読解し、それらの主張や性格を適切に把握した上で、全ての文献・資料に共通する視点を自ら発見し、論理的な脈絡をつけながら批評を加えつつ、独自の考えをまとめる問題（総合問題）を考案した。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 人文学部のアドミッションポリシーに設けられている学力の3要素のひとつ、人間、社会、文化、芸術、歴史などに関する「**考察対象・方法への興味・関心**」「**思考力・コミュニケーション能力**」以上2項目に対する「**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**」は特に重要であり、大学入学共通テストでは測りにくいので、人文学部の個別学力検査では総合問題によって測定している。
- 上記とともに、複数の文章（英語文章、数理的な情報分析に関する文章を含む）を読み解き、それらに共通するテーマに関わる設問に対して、読み解いた文章の内容を素材の一部を用いながら、**論理的で首尾一貫した論述内容を構築し、それを適切に表現する力**を測る。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 総合問題のテーマ論述（最終論述問題）では、それに**先行する設問を踏まえなければ解答が困難になるように工夫**されており、総合的な教養を測定しようとする点が総合問題の特色といえる。
- 総合問題が**テクニカルな受験訓練の対象となる恐れのある単なるテーマ論述の小論文形式ではないこと**、さらに、受験生の表現力や総合力を引き出しにくくないように、**出題する文献・資料に難度を求めないこと**などが重視された。

取組を実施する体制

- 総合問題の作成は作問・採点を担う委員会において議論を重ねながら行われるが、他の教員も問題点検を行っている。主体的な考察による論述解答を求める総合問題は想定される解答例が複数ある場合があり、全体として共通する大テーマのもとで、各文章読解問題が大テーマに対応したものになっている必要があることから、問題の点検には十分な時間をかけ丁寧に行う必要がある。
- 学部内で共有されている規程等に従いながら、問題構成、配点などに関するこれまでの積み上げを引き継ぎつつ、作問、採点を担当する委員会が議論を重ね、**相互に批判的な検討をすることで、作問方針、採点の基準や方法を明確化**している。

- 人文学部のWebサイトにおいて、総合問題の出題意図、配点、過去問と解答例、出題意図を掲載するなどして説明するとともに、オープンキャンパスなどの機会を利用して情報提供している。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 総合問題の出題・採点が形骸化しないよう留意が必要である。出題・採点にあたっては、受験者が**人文学部生としてふさわしい批判的思考能力・表現力の持ち主か否かを適切に測定するため、テーマ設定及び設問文章の選出と組み合わせに十分な注意**を払い、出題内容を工夫するようにしている。
- 入試関連のデータと入学後の成績との関連について検討し、出題・採点の改善につなげられるよう点検評価している。

負担軽減の工夫

- 総合問題は論述解答形式のため、**採点業務の負担は大きい**。担当する委員会メンバーは事前に相談した上で、また随時情報共有しながら採点業務に取り組むとともに、**関連する委員会とも連携しながら、過密なスケジュールにならないよう調整**している。

信州大学 総合問題 問題例（令和4年度 信州大学人文学部 一般選抜前期日程）

大問Ⅳ：Ⅰ～Ⅲでは、旅行・巡礼・移住など、個人による様々な形態の「移動」や、その意味が論じられているが、移動のあり方をめぐる価値観は、今後どのようなものになるだろうか。Ⅰ～Ⅲの文章の少なくとも1つを参考にして、あなたの考えを500字以内で述べなさい。ただし、参考にした点が何か分かるように文章内で必ず触れること。（配点120点）

Ⅳ（出題意図）

読解力、問題発見能力、言語運用力を総合的に評価する問題。Ⅰ～Ⅲで出題された文章を読み解き、その内容（一つないし複数）を自らの議論の素材の一部に用いながら、首尾一貫した論述内容を組み立て、それを説得的に表現する実力を測る。計測に当たっては、出題文Ⅰ～Ⅲが扱っている「移動」に関わる問題（一つないし複数）を

- ①「適切に読解した上で明示的に指摘」し、
- ②その内容に基づいて「論点となる問題を発見」し、
- ③「適切な言語表現（語彙選択・構文）を用いて自らの考えを整理し、論理的・説得的にまとめる」という3つの視点から評価する。

信州大学「一般選抜」

選定区分： 1 思考力・表現力・判断力の評価・育成

- 大学入学共通テストで測りにくい能力を総合問題により適切に判定
- 教科の知識を横断する、総合的な教養と批判的思考能力・表現力を問う

参照：信州大学人文学部 一般選抜・前期日程
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prospective/department/first-schedule.php>

学内検討のスケジュール

- 学部の総合問題は平成3年度から導入されたが、従来どおり大学入試センター試験（現・大学入学共通テスト）によって一定水準の理解力を客観的に判定する材料とする一方、**入試問題検討委員会（プロジェクトチーム）**を組織し、**同委員会での検討を経て、プロジェクトチームが出題採点委員**となり、第1回の「総合問題」が実施された。
- 総合問題の作問作業自体は年間を通じて行われ、前期はまず総合問題の大テーマ案について検討し、絞り込む。後期は、作成した問題案を作問・採点委員を経験した教員が詳細に吟味し、問題点を洗い出し、それを当該年度委員会に持ち帰って議論し、改善にあたる。こうしたプロセスによって最終的に総合問題を確定させ、点検を繰り返し実施しつつ本試験に備えている。

入学後教育との連結方策

- 入学者の人文学部の授業での取り組み方や学習態度から、総合問題の採用の成果は一定程度は達成されており、現状では人文学部における入試の取組は高大教育の連結に資するものと考えられる。

取組の成果の検証結果

- 入試の成績と入学後の成績との関係について分析し、点検評価している。学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」のうち、前者2つを測定する**大学入学共通テストの成績は大学1、2年生における基礎的な学修の成績と正の関連**が見られる一方、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を測定する**総合問題の成績は、大学3、4年生における専門的かつ応用的な学修の成績と正の関連**が見られる。

好事例選定委員会委員コメント

- 大学入学共通テストでは計れない読解力、思考力、表現力、想像力などを高等学校で学習したことを基にして総合的に問うという趣旨は、**教科横断の要素も強く、他大学のモデルになるもの**と考える。**ノウハウが蓄積**されている点も重要である。**過去問や解答例に加えて採点の意図を公表しているのも重要な点**である。

- 入試と入学後の成績との分析で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測定するとして共通テストの成績は大学1、2年生の成績と、一方、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を測定するとして総合問題の成績は、大学3、4年生における成績と正の関連が見られるとの結果は興味深い。

- 早坂俊廣（はやさか としひろ）人文学部長 へのインタビュー

【総合問題を実施するにあたり苦労した点は？】

創設当時から現在まで苦労していることは、作題委員の選出です。当学部は教員数が少なく（最も少ない時で37名。総合問題導入時の3分の2程度に縮小）その中で作題委員をローテーションさせていくこととなりますが、入試問題の作成は約1年間で行うため、作題委員の負担は非常に大きいものとなります。作題委員の教員は、学内・学部内の重職担当者以外から選出すること、「数理的センスを問う問題」「英文を使用した問題」も担当しなければならないことから、毎年苦労しています。

採点については、どうやって論述式の解答を公平な観点で採点するかが課題となっています。これには、出題者・採点者が、採点方針・基準を明確化・共有することが重要となります。本学部では、出題者・採点者がともに十分な議論を重ね、お互いに批判的な検討をすることで、採点方針の基準や方法を明確化・共有するようにしています。実際の採点業務では申合せを作成し、毎年見直し・更新をしながら、採点業務にあたっています。

このように、出題・採点の労力は多大なものとなっていますが、「総合問題」を費用対効果の側面からやめてしまおうという動きは今のところ無く、本学部の教員は、苦労はあるものの納得のうえ、時に楽しみながら問題作成・採点業務を行っています。

【今後、新たな選抜を制度設計する他大学の担当教員に向けたアドバイス】

大変ですよ（笑）。この選抜は、一定の成果を収めていると確信していますが、費用対効果が良い方法かは分からないし、本当に有効に機能しているかどうかは、様々な入試状況を踏まえて継続的に分析していかなければなりません。また、厳密に言えば合格者・入学者のデータだけでなく、不合格者のデータも追っていかないと、正確なことは何も言えません。30年やっていても、手探り状態です。

【「総合問題」を実施するにあたり高等学校関係者をはじめとする学外の関係組織のニーズをどのように把握したか。】

高校や予備校からのご意見やご要望を頂戴する機会は設けていますが、学外からのニーズをそのまま取り入れたいとは考えていません。高校や予備校から、論述問題の模範解答を出して欲しいとの要望をいただいているのですが、本学部としては、受験生が独自にもつ資質の豊かさを見たいわけなので、模範解答を示すことはあえてしていません。また、受験テクニクとして「総合問題」の中で捨て問を作るといった方法もあると伺ったことがありますが、本学部としては、受験生の資質の豊かさ・総合的な能力を把握するのが目的であるため、その目的にかなっただけの問題作りを心掛けています。



中村学園大学「グローバル人材育成選抜」

- 8つの英語資格・検定試験を活用し、基準をクリアした者のみ出願可
- 入学後、海外協定校への派遣留学を支援

選定区分： **A** 総合的な英語力の評価・育成

参照：中村学園大学 入試要項
<https://saas.actibookone.com/content/detail?param=eyJjY250ZW50TnVtIjoxOTk1NjV9&detailFlg=1&pNo=3>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜
対象学部：流通科学部（流通科学科）
募集人員：3人（学部全体の約1%）
入学者数：0人（志願倍率2.3倍）
※令和3年度入試における入学者数は1名

【選抜方法】

- 英語資格・検定試験のいずれかにおける級・スコア（CEFR B1以上）を出願要件とし、「英語（150点）」・「国語（100点）」・「数学又は社会（100点）」の3科目の試験により選抜。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 将来的に**海外の流通関連の分野で活躍できるグローバル人材の養成**を目的。
- 単なる語学留学ではなく、留学先でのインターンシップ参加など、目的意識が高い留学希望の学生を物心両面で支援。

アドミッション・ポリシーとの関係

- アドミッション・ポリシーにおける求める人材像として、「**多様な価値観を受け入れ、協働して学ぶことができる人**」を掲げている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 当該選抜を経て入学し、入学後一定の累積修得単位数及びGPAを満たした者に対し、**海外協定校への派遣留学を支援**。
- 支援内容は、海外渡航費の実費全額（パスポート、ビザ申請料は除く）、及び留学先授業料を全額支給（120万円を上限）。
※令和3年度。支援内容は毎年見直し。
- 派遣期間は原則1年。

取組を実施する体制

- 入学後に、**留学の担当部署と学科教員による語学向上のためのフォロー**を行っている。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 本学では以前から学生に対する海外留学のサポートに力を入れているが、入学当初から英語力があり、留学意識の高い学生が増えることを期待し、この入試制度を導入したが、制度自体が受験生にはまだ浸透しておらず、**受験者数が増えない**ことが課題。
- この解決のために**オープンキャンパスやオンライン説明会**等、直接高校生と接する機会を利用し、制度の周知を図っている。

負担軽減の工夫

- **同一日に実施する一般選抜の入試問題を活用**することで、入試担当教員の負担の軽減を図っている。
- また、英語力を測るため、出願資格で英語の資格検定の級・スコアを活用し、当日の試験においても、英語の点数を1.5倍に傾斜配点をかけることで、同様に負担軽減を図っている。

一般選抜 / グローバル人材育成選抜

出願資格 下記の英語資格・検定試験の級またはスコア以上の資格を有する者（CEFR B1以上）

資格	実用英語技能検定 (S-CBT・S-Interview含む)	GTEC	TOEFL iBT®	TOEIC® L&R+S&W	IELTS (Academic Module)	TEAP	TEAP CBT	Cambridge English
級・スコア	2級以上	960以上	42以上	1150以上	4.0以上	225以上	420以上	140以上

試験科目



傾斜配点により100点満点を1.5倍に換算

出願時に「**志望理由書**」を提出。入学後の支援の参考とし、合否には影響しない。

中村学園大学「グローバル人材育成選抜」

- 8つの英語資格・検定試験を活用し、基準をクリアした者のみ出願可
- 入学後、海外協定校への派遣留学を支援

参照：中村学園大学 入試要項
<https://saas.actibookone.com/content/detail?param=eyJj250ZW50TnVtIjoxOTk1NjV9&detailFlg=1&pNo=3>

学内検討のスケジュール

- 令和3年度入学者対象の一般選抜での新規実施に向け、前年度（令和元年）11月から学科と担当部署にて検討を開始。
- 令和2年3月の学内承認を経て、同年4月よりホームページ及び入学試験要項にて公表を開始するとともに募集活動を行い、令和3年2月に実施。

入学後教育との連結方策

- 英語資格・検定試験のスコア（CEFR B1以上）の出願条件を設けることで、英語力を評価し、また入学後に更に英語力を伸長させるために留学を支援。

取組の成果の検証結果

- 初年度（令和3年度）。**入学者1名の留学終了後（令和5年度）に確認、検証を行う予定。**

好事例選定委員会委員コメント

- **大学入学者選抜と留学支援を連携させた取組は珍しく、他大学の参考となる。**英語の外部試験においてCEFR B1という共通テストよりも高い出願条件を課し、入学後に一定の成績条件を満たした者に海外協定校への派遣留学を資金面からも支援するつながりは評価でき、その**派遣期間が1年間というのも良い参考となる。**出願書類の志望理由書を選考対象としないことについては要検討課題。
- 留学支援と入試を連動した素晴らしい制度だが、予算的な問題はないのか。特に今後持続的に継続は可能か。
- 留学を視野に入れ、**高等学校までで一定の英語力をつけた生徒にとっては、留学を見通して出願できる。**

- 入学生へのインタビュー

【当該選抜を受験しようと思ったきっかけは何か。】

幼少期から海外で学ぶことに興味があり、高校に入学してからその思いが強くなったため、様々な大学の留学制度などについて調べ、中村学園大学の「グローバル人材育成選抜」を知りました。留学中の学費や渡航費が大学から補助されるため、私もこの制度を利用すれば、親に金銭的な負担をかけずに留学への第一歩が踏み出せるのではないかと、さらに英語力が伸びるのではないかと思います、この選抜を受験しよう決めました。

【当該選抜の受験に向けて心がけてきたことは何か。】

一般選抜の受験対策と併せて、この選抜の出願資格である英語資格・検定試験の級またはスコア（CEFR B1以上）を取得するため、私は実用英語技能検定2級取得に向けた学習に計画的に取り組みました。

合格後は、入学後すぐに行われるTOEIC Bridgeに向けての学習を強化しました。大学入学後、英語のクラスは習熟度別に分かれるため、必ず一番上のクラスに入ることを目標に学習に励みました。また、実際に中村学園大学に通っている先輩方に授業について質問したり、ホームページで先輩方の留学経験談を見て留学へのモチベーションを高めるようにしました。

【入学後、留学までにどのような準備をしたか（語学学習等）。】

英語の授業は全力で取り組み、英語の他にも中国語・韓国語の授業も履修し、様々な言語に触れることを心がけました。また、英語の検定取得に向けた勉強や、無料のオンライン英会話学習の活用も、学内で外国人留学生と英会話で交流できる語学カフェという機会も利用しました。学内には、先生方からの語学支援や留学準備のための様々なサポートがあるため、安心して留学に臨むことができました。

【実際に留学して、当該選抜を利用してよかったか。当初の目的は叶っているか。】

実際に留学して、この選抜を利用して本当に良かったと思います。留学先では様々な人に出会い、私のコミュニケーション力も上がったと思います。また、国民性や食習慣など、日本との大きな違いにも気づくことができました。

私の留学の目的は、語学力のさらなる向上はもちろんのこと、留学先であるハワイがなぜ旅行地として有名なのか、その魅力について現地調査をすることだったため、実際に現地の空港で、ハワイを訪れた人たちを対象に、ハワイを訪れた目的やハワイの魅力について調査できたことについても満足しています。

【当該選抜の受験を考えている人にメッセージ】

この留学制度自体は、この選抜以外で入学した学生もチャレンジすることはできますが、元々の人数枠に限り、入学後の成績等で選抜されるため、必ずしも希望者全員が利用できるわけではありません。その点、この選抜で入学した人には優先的にこの留学制度の支援を受けられることがメリットだと思います。

更には、**留学期間は在学扱いとなるため休学せずに4年で卒業することが可能なことや、大学から留学費用を支援して貰えることも、非常に大きなメリットだと思いますので、留学したい人、留学に興味はあるがその一歩が踏み出せない人に、是非この選抜をお勧めしたいです。**

東北大学「一般選抜/AO入試Ⅱ期・Ⅲ期」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 特任教授（高校教員経験者）及び特定教授（名誉教授）が作題・採点業務支援を実施
- 高等学校学習指導要領を熟知した高校教員経験者による質の高い作題支援

参照：東北大学入試センター
<https://www.tnc.tohoku.ac.jp/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜、総合型選抜

対象学部：全学部

※AO入試Ⅱ期は経済学部・薬学部を除く

※AO入試Ⅲ期は筆記試験を課す医学部・工学部が対象

募集人員：2,127人（大学全体の約89%）

入学者数：2,201人（志願倍率約3.3倍）

【選抜方法】

<AO入試Ⅱ期>

- 筆記試験、出願書類及び面接試験により選抜

<AO入試Ⅲ期>

- 大学入学共通テストの成績、筆記試験、出願書類及び面接試験により選抜

<一般選抜>

- 大学入学共通テスト、個別学力試験及び主体性評価チェックリストの内容を用いて選抜 ※一部の学部では面接試験を実施

取組の理念、背景にある課題意識等

- 入試問題作成者の入れ替わりにより、試験問題の難易度が変動する等、**質保証に対する懸念**があった。
- 現役教員の作題・採点業務負担が大きく、AO入試（総合型選抜）拡大に伴い、**各部署での作題・採点業務が増大**している。
- 上記の解消のため、**高校教員経験者による特任教授や名誉教授による特定教授**により、作題方針の改善や現役教員の負担軽減の実現を図る。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 本学のアドミッション・ポリシーでは、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、**論理的思考力や問題発見力、分析解決能力、豊かな創造力、発想力、表現力、コミュニケーション能力**を有することを求めている。また、AO入試では一般選抜と同等以上の学力水準を求めている。
- 本取組により、質の高い作題支援、試験問題の質保証が行われることで、**一般選抜及びAO入試を適切に実施し、上記の能力の判定に寄与**している。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- **特任教授（高校教員経験者）**及び**特定教授（名誉教授）**が**作題・採点業務支援**を実施。
- 特任教授は、**高等学校学習指導要領を熟知した高校教員経験者による質の高い作題支援**を行うことができる。
- 特定教授は、**シニア教員（過去に本学の作題経験有）を活用した試験問題の安定化と現役教員の負担軽減**を図ることができる。
- AO入試では、学部からの要望により特任教授が作題支援を実施し高い評価を得ている。また、一般選抜では、特任教授・特定教授のいずれも質の高い作題支援、教員の負担軽減の実現等に貢献しているとの評価を得ている。

取組を実施する体制

- 特任教授は**入試センターに所属**し、AO入試及び一般選抜の作題支援、及び高等学校訪問や各種説明会への参加等、広範な入試広報活動を実施。
- 特定教授は**高度教養教育・学生支援機構に所属**し、AO入試及び一般選抜の作題支援、及び全学教育科目を担当。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 特任教授・特定教授ともに候補者選定に苦慮。本学の志願者層や入試について深く理解しており、かつ生徒の進路指導経験が豊富な人材を継続的に確保していくことが課題。
- 全国各地で入試説明会や高校訪問を実施することで**高校関係者と関係を構築し、高等学校に人的なネットワークを築いていたこと**が特任教授の人材確保につながっている。

負担軽減の工夫

- 特任教授は、AO入試及び一般選抜における質の高い作題支援に加え、高等学校訪問や各種説明会への参加等、**広範な入試広報活動の展開にも大きく寄与**している。
- 特定教授は、AO入試や一般選抜の作題支援に加え全学教育科目担当による現役教員の業務負担軽減及び作題への長期間従事（最大5年）による**試験問題の難易度安定化に寄与**している。

特任教授（高校教員経験者）及び特定教授（名誉教授）の作題・採点業務支援

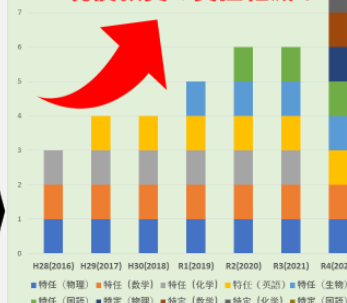
課題

- ① 入試問題作成者の入れ替わりにより、試験問題の難易度が変動する等、**質保証に対する懸念**
- ② 現役教員の作題・採点業務負担が大きい！
- ③ AO入試（総合型選抜）拡大に伴い、各部署での作題・採点業務が増大！

新たな取組み！

- | | |
|--|---|
| <p>特任教授</p> <p>① 対象者：高校教員の経歴を有する者</p> <p>② 作題への関与：高校教員の経歴（高等学校学習指導要領）に基づく作題支援</p> <p>③ 効果：AO入試及び一般選抜における質の高い作題支援に加え、高等学校訪問や各種説明会への参加等、広範な入試広報活動の展開にも大きく寄与</p> | <p>特定教授</p> <p>① 対象者：本学を定年により退職した教授</p> <p>② 作題への関与：学術的観点（本学における過去の作題経験）に基づく作題支援</p> <p>③ 効果：AO入試や一般選抜の作題支援に加え全学教育科目担当による現役教員の業務負担軽減及び作題への長期間従事（最大5年）による試験問題の難易度安定化に寄与</p> |
|--|---|

質の高い作題・入試ミス防止 & 現役教員の負担軽減！



- 特任教授（高校教員経験者）及び特定教授（名誉教授）が作題・採点業務支援を実施
- 高等学校学習指導要領を熟知した高校教員経験者による質の高い作題支援

参照：東北大学入試センター
<https://www.tnc.tohoku.ac.jp/>

学内検討のスケジュール

<特任教授>

- 高等学校学習指導要領を熟知した質の高い作題支援を行うため、平成27年度に検討を行い、平成28年4月から高校教員経験者を特任教授として2名（物理、数学）採用した。
- その後、化学、英語、生物、国語の特任教授を採用し、体制の充実をはかっている。

【導入：平成28年4月】

<特定教授>

- シニア教員の豊富な経験を活用し試験問題の安定化と現役教員の負担軽減をはかるため、令和3年度に検討を行い、令和4年4月から本学を定年により退職した教授を特定教授として4名（国語、数学、物理、化学）採用した。

【導入：令和4年4月】

- **今後段階的に最大10名まで雇用**し、体制の充実をはかる予定としている。

<国語の試験時間変更>

- 文部科学省通知に基づき論理的な思考力・判断力・表現力等の適切な評価について検討を行い、これを実現するため令和3年度入試から**一般選抜「国語」の試験時間を120分から150分に変更**することを決定。令和2年3月に試験時間変更を公表。この結果、より一層『論理的な思考力・判断力・表現力等』を適切に評価する出題となった。

（対象学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部（文系））

【導入：令和3年度入試】

入学後教育との連結方策

- 学部学生が受講する全学教育の授業を特定教授が担当することとしている。

取組の成果の検証結果

- 学部学生が受講する全学教育の授業を特定教授が担当することで、入学後の学力を確認し、その結果を入試問題の難易度検討の材料としている。

好事例選定委員会委員コメント

- **質の高い試験問題を作成するための体制を整備している点**や、**それが現役教員の負担軽減にも繋がっている点**で、好事例になりうる。ただし、入試で評価した思考力・判断力・表現力等が入学後の教育にどのように繋がるかという点については、やや不明確である。

- 特任教授（高校教員経験者）及び特定教授（名誉教授）が作題・採点業務を支援することで、**高校教員の経験、学術的観点からの作題支援**を行うことにより、**質の高い作題**を行い、また、高等学校のカリキュラムを逸脱しない内容とすることもでき、**入試ミスの防止**にもつながる。国語については論理的思考力・判断力・表現力等の評価のため150分（30分延長）の試験を実施。

- 滝澤 博胤（たきざわ ひろつぐ） 東北大学理事・副学長へのインタビュー

【本取組の設計で苦労した点は何でしょうか？ また、どのように克服したのでしょうか？】

特任教授、特定教授ともに候補者選定に苦労しました。特に特任教授は「高等学校経験者」であれば誰でも良いわけではないのです。本学の志願者層や入試について深く理解しており、生徒の進路指導経験が豊富な人材を継続的に確保していくということが、今後一番の課題だと感じています。



東北大学では、アドミッションセンターの設置と同時に平成11年度から全国各地で入試説明会と高校訪問を開始しました。高校訪問は高校教員と円滑なコミュニケーションを結び、東北大学の入試に理解を深めてもらう貴重な機会となっています。こうした長年の取り組みから高校関係者と関係を構築し、高等学校に人的なネットワークを築いていったことが結果として、特任教授の人材確保に繋がっているものと考えています。

【本取組開始までの過程において、社会や高等学校関係者のニーズをどのように把握しましたか？】

平成16年から東北大学高等教育フォーラムと称するシンポジウムを年2回、春と秋に開催しています。特に春の部ではアドミッションセンターを改組した入試センターが主体となって高大連携や高大接続に関わる話題について議論を行っており、それが幅広く社会や高校関係者のニーズを把握する機会となっています。

さらに東北大学の入試に特化した機会としては、平成22年度に始まった県内の高校との情報交換会が挙げられます。最近では、年1回、年度末に当該年度における入試やその時の喫緊の課題に関して高校教員と膝詰めで率直な情報交換を行ってきました。令和4年度からは、他の東北各県でも従来の一方向的な入試説明会を改め、宮城県での取組みに倣った双方向的な情報交換の場を新たに作り始めたところです。

また、平成29年度からは、毎年、東北大学に多くの志願者を送り出してきた高校等を対象に、質問紙調査を行って個別の課題に関する意見をまとめてまとめ、研究発表という形で発信もしてきました。こうした様々な機会を利用したステークホルダーとの対話を踏まえることで、社会や高等学校関係者のニーズを把握しようと試みています。

【試験問題の難易度安定化や、作題業務の負担軽減を検討する大学に向けたアドバイスをお願いします。】

試験問題難易度の安定化を図り、入試ミスを防ぐためには、専門家養成やコンソーシアム化といった作題体制強化が必須であると同時に、現役教員の業務負担への配慮も必要です。本学の仕組みはこれらの課題に対して同時に機能することを目指した試みです。まだ取り掛かったばかりで、定着するまでには息の長い取組みが必要になると思います。各大学が長期的視点で取り組んでおられる入学者選抜の改革にとって、1つのヒントになれば幸いです。

青山学院大学「全国児童養護施設推薦」

選定区分： **ウ** 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- スクール・モットー「地の塩、世の光」に基づき高等教育の機会を提供
- 大学での学びを生かし、将来社会貢献できる人材の育成につなげる

参照：全国児童養護施設推薦 入学者選抜情報サイト
https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/exam_children_home.html

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：全学部
募集人員：全学部合計で若干名
入学者数：非公表

【選抜方法】

- 「社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国児童養護施設協議会」に加盟している児童養護施設に入所している者に対し、施設長（施設責任者）の推薦による入学者選抜を実施。
 - ・ 第一次審査：調査書、学修計画書、志望動機・理由書、児童養護施設長推薦書による書類審査
 - ・ 第二次審査：志望学科の面接

取組の理念、背景にある課題意識等

- 青山学院の幼稚園から大学まで共通した**スクール・モットーである「地の塩、世の光」（「あなたはかけがえのない存在だ」という宣言であり、この考えを生かし、人々や社会に貢献できる人間になってほしいという人物像を指し示している）に基づき**、多様な背景を持った学生の受入れ配慮の観点から、様々な事情で高等教育への進学が困難な者に、その進学機会の提供を図ることを目的としており、児童養護施設に入所している者で、本学への進学を希望する者に高等教育の機会を提供するために実施している。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 本学では、各学部・学科が求める人材を、さまざまな形式の入学者選抜を通して以下の能力等に照らして受け入れる。
 - ・ 高等学校卒業相当の知識・技能
 - ・ 高等学校卒業相当の知識に基づいて自ら思考し、判断し、表現する能力
 - ・ 本学の特徴を理解し、大学における学びを追求し、社会のために役立てる意欲・関心・態度

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 多様な背景を持った学生の受入れ配慮の観点に基づき、様々な事情で高等教育への進学が困難な者に、その進学機会の提供を図っている点。
- このなかで、スクール・モットーに基づき、児童養護施設に入所している者に対する選抜を行うとともに、入学後の学費（入学金、授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動料）、諸会費等（学友会費、後援会費、校友会費、学会費）の免除及び全国児童養護施設推薦入学学生の勉学を支援するための奨学金を支給（月額10万円）し、**在学中学びを追求できる環境を整える**など、高等教育の機会を提供している点が特色である。

取組を実施する体制

- 児童養護施設に入所している者を対象としている関係上、志願者、入学者、卒業後等に関する情報の管理に一層の注意を徹底する必要があり、情報共有は必要最低限の範囲としている。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策


- 児童養護施設に入所している者を対象としている関係上、志願者及び入学者に関する情報の管理に一層の注意を徹底する必要があるという実施に当たっての課題がある。このため、入学者選抜制度の概要のみ公表することとしており、受験状況（志願・合格・入学者数等）は非公表としている。

負担軽減の工夫

- 受験生に対する負担軽減策として、第一次審査を書類審査とすることにより、交通費等の負担軽減を行い受験しやすい環境を整えている。
- 入学後の学生に対する負担軽減（経済的支援）として、**学費、諸会費等を免除するとともに、本学独自の全国児童養護施設推薦入学学生の勉学を支援するための奨学金制度を整備**している。



青山学院大学「全国児童養護施設推薦」

選定区分：  多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- スクール・モットー「地の塩、世の光」に基づき高等教育の機会を提供
- 大学での学びを生かし、将来社会貢献できる人材の育成につなげる

参照：全国児童養護施設推薦 入学者選抜情報サイト
https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/exam_children_home.html

学内検討のスケジュール

- 当該選抜方式は、平成30年度入学選抜より実施している。以下のとおり検討の上実施した。
 - ・平成28年6月～平成29年3月：
当該選抜の概要検討及び新規募集の決定
 - ・平成29年7月：
入学選抜要項を該当する児童養護施設へ配付
 - ・平成30年度入学選抜より実施

入学後教育との連結方策

- 本学の特徴を理解し、大学における学びを追求し、社会のために役立てる意欲・関心・態度を備えた者に進学機会の提供を図ることを目的として選考を実施している。
- 入学後当該学生には**専任のアドバイザー教員を付け、関係各部署との連携のもと、個別性の高いサポートを受けることができる体制を構築**している。
- また、入学後の学びを支援するための体制（経済的支援）として、学費（入学金、授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動料）、諸会費等（学友会費、後援会費、校友会費、学会費）を免除するとともに、本学独自の**全国児童養護施設推薦入学学生**の勉学を支援するための奨学金制度を整備（月額10万円給付）している。

取組の成果の検証結果

- 当該入学選抜での入学者の修学状況を踏まえて、当該入学選抜における出願資格や募集人数等の改善を図っている。
- 当該選抜方式は、平成30年度入学選抜より実施しており、卒業生を輩出したばかりであるが、実施実績を踏まえ、当該入学選抜での入学者の修学成績と進路決定率等の十分なデータ蓄積を行い、成果の検証を行っていくことが今後の取組課題となっている。

好事例選定委員会委員コメント

- 児童養護施設入所者を対象に限定した取組であるが、**スクール・モットー「地の塩、世の光」に基づくものであり、社会的にも大いに評価できる取組**である。
- 「第一次審査」は書類審査のため、交通費などの負担軽減もあり受験しやすさも確保している。**入学検定料を免除し、入学後の学費の免除や奨学金給付制度などの支援制度も手厚い。**

- 出願システムで入力する「主体性・多様性・協働性に関する経験」等を、入学後の修学支援の一助とするという記載があり、経済面以外の支援体制が示唆されている。また、**施設長を後見人として、大学と後見人が連携して入学後も学生を見守ろうという意図が感じられる。**

● 学生インタビュー

【当該選抜を受験しようと思ったきっかけは。】

当時生活していた児童養護施設の施設長に制度を紹介されたことがきっかけです。もともとは公立大学の一般入試を考えていましたが、合否が出るのが3月でそこから独り立ちの準備を行うことへの不安感もありました。この制度を利用することで**余裕をもって施設退所**に向けての準備をすることができると思いました。経済面においてもこの制度は魅力的でした。

【当該選抜を受験した感想（当該選抜で印象に残った点）は。】

全学部の中から行きたい学部を選択できたので、学びたいことを妥協しなくてもよい点が印象的かつ魅力的でした。

【当該選抜を受験して、入学後の学びにおいて役立った点は。】

学費全額免除に加えて生活費もいただけるため、アルバイトで働きづめになることなく学業に専念できた点がかかなり大きかったです。

【当該選抜の受験を考えている人にメッセージをお願いします。】

親から経済的な援助を全く受けられない状態での進学だったので不安も大きかったです。この制度で金銭面において全く不自由しない大学生活を送ることができました。また、本選抜で入学した学生にはアドバイザーの先生が付いて下さいます。施設で育った背景を知って自分のことを気にかけてくれる存在が大学にいるというのは、きつと想像以上に心強いものであると思います。児童養護施設で育ってきた方々にとって、この制度が大学進学を考える選択肢の一つになれば一利用者としてとても嬉しいです。応援しています。

● 本入試担当教員インタビュー

【本選抜制度を創設しようと思いついたきっかけは。また、制度設計で心掛けたことは。】

児童養護施設長との交流の中で、高校に通う施設児の進路状況の厳しさを知り、大学への就学機会を与えることができないかの検討を行うこととなったのが直接のきっかけです。その背景には、「**社会に貢献するという本学の理念と、弱者を受入れ支えてきた歴史的な実績**がありました。児童養護施設出身者は大学への進学自体が厳しいだけでなく、中退率も全国平均と比較して非常に高いと言われていることを把握したことから、**入学時だけでなく、入学後の支援を充実させることも重要と**考え、制度設計しました。

【本選抜制度で工夫した点は。】

施設入所者は塾に行くことはおろか、自分専用の勉強スペース・勉強時間の確保も困難であり、一般入試での受験はハードルが高いと考え、**進学希望者の負担を軽減するため専用の推薦入試制度**としました。また、勉学に支障をきたさないよう、**授業料全額免除・月額10万円の給付奨学金**を支給しています。加えて、**入学後の学業・学生支援として、専属アドバイザー制度**を設けています。学生が所属する学部学科の教員1名が専属アドバイザーとなり、学生が慣れない大学生活に不安を感じたり、困り事が生じたときに一人で抱えることのないよう支援しています。特に入学2年目までは、月1回アドバイザーが面談を行うことを原則としています。

【選抜制度の創設課程において、社会（児童養護施設関係者）のニーズをどのように把握しましたか。】

全国児童養護施設協議会に加盟する児童養護施設（本制度を発足した平成28年当時、602の施設が該当）の施設長にアンケートを実施しました。

工学院大学「探究成果活用型」

- 協定校との共催の探究シンポジウムで高校生の探究活動の発表・交流の場を提供
- 高校生の探究成果をアーカイブする探究データベースを構築

選定区分：**工** 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：工学院大学 探究成果活用型選抜
<https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/method/ecom/tankyu.html>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：先進工学部、工学部、建築学部、情報学部
募集人員：24名（大学全体の1.7%）
入学者数：8人

【選抜方法】

- 1次選考：探究活動書類審査、基礎学力調査
- 2次選考：探究活動に関するプレゼンテーション、面接（口頭試問を含む）

取組の理念、背景にある課題意識等

- 視野が広く科学的、論理的思考を兼ね備えた国際社会に貢献する付加価値の高い理工系人材育成のため、**探究学習を通じて得た、思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む意欲・態度等を評価し、高校での学びを大学教育に繋ぐとともに、受験生の多様な能力を多面的に評価・選抜する。**

アドミッション・ポリシーとの関係

- 多面的基礎学力（数学や英語基礎的運用能力）を有し、志望する分野の科学技術をチームで共に学び、国際社会の中でそれを生かす**意欲と関心とを有する人物**を求めている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 本学と協定校（多摩科学技術高校等）が共催して開催する探究シンポジウム（合同発表会・交流会等）を通じて、**高校生が日ごろ取り組んでいる探究活動の発表・交流の場を構築**している。
- **高校生の探究成果をアーカイブする探究データベースを構築**している。

取組を実施する体制

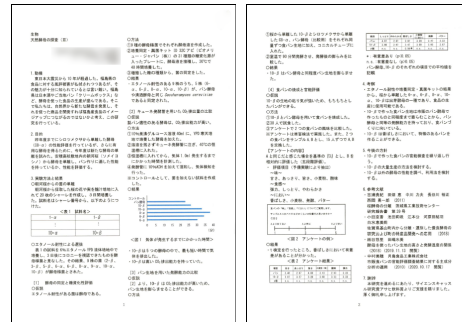
- 令和2年に**高等学校との連携を重視**して高大連携室を設置（現在は入学広報部で実施）
- 本学と協定校が連携し、各シンポジウムの実施内容・運営方法を協議しながら実施している。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- コロナ対応としてオンラインでの実施としたため、webサイトの構築、オンライン環境の整備、実施運営方法の構築に苦慮したが、オンラインの特性を活かし、**各シンポジウムには全国から参加高校**がある。

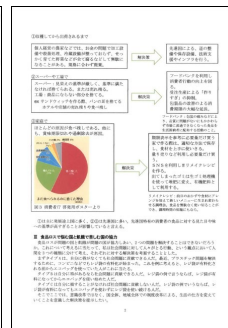
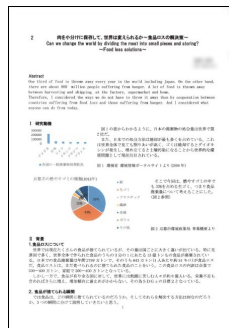
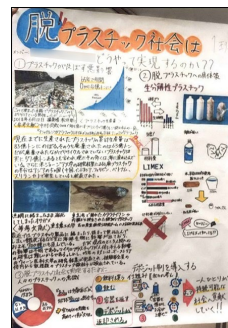
負担軽減の工夫

- **高大接続プログラムは、オンラインツールを活用し、参加しやすい環境を整備し、運営の負担も軽減**している。



探究活動書類審査 提出書類の例

（論文）



（ポスター発表・論文）

工学院大学「探究成果活用型」

- 協定校との共催の探究シンポジウムで高校生への探究活動の発表・交流の場を提供
- 高校生の探究成果をアーカイブする探究データベースを構築

選定区分： **Ⅰ** 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：工学院大学 探究成果活用型選抜
<https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/method/ecom/tankyu.html>

学内検討のスケジュール

- 令和3年度入試より新しい入試体制となるにあたり、本学では平成30年度に新入試WGを設置し、令和3年度入試の検討・準備を進めてきた。
- 検討にあたり、令和4年度の学習指導要領から必須化される探究学習と高校時の学習成果を評価する本学独自の入学者選抜を検討し、**学力に偏重しない多面的視点からの選抜**として探究成果活用型選抜を令和3年度入試から実施している。

入学後教育との連結方策

- 以下の入学前教育を実施し、**入学後の教育との連結**を図っている。
- ① 4教科（数学、物理、化学、英語）の習熟度調査をWEB上で実施
- ② 本学で用意する4教科の課題をLMSを活用したE-ラーニング形式で実施
- ③ 入学前オリエンテーション・スクーリングを実施
- 入学前に大学の授業をオンデマンド等を活用しながら履修し、一定の単位を修得できる**早期先取履修制度の導入**を検討中。

取組の成果の検証結果

- 探究成果活用型入試で入学した学生の学業成績の**追跡調査の結果、令和3年度入学生の平均GPA3.06**となっており、全学平均が2.88に対して**高い数値**となっている。

好事例選定委員会委員コメント

- 高校での探究学習を評価する入試を行っていることに加えて、**データベース作成や発表会開催など、大学の得意な分野を活かしての高大接続を進める入試**になっている。

- 単に探究活動の成果を選抜材料とするのではなく、探究活動の発表・交流の場を設けている点は、高校生の日頃の学びに良い刺激になると思われる。**プレゼンテーションや面接を評価するルーブリックが作成されている点**も評価できる。

- 学生インタビュー（先進工学部環境化学科2年、建築学部建築デザイン学科3年）

【当該選抜を受験しようと思ったきっかけ】

探究活動に力を入れている高校に在籍しており、熱心に探究活動に取り組んでいました。学内外で探究成果を発表する機会もあり、これまでの取り組みを活かして受験できる入試方式で、奨学金制度対象の入試であったことから受験しよう決めました。

【当該選抜の受験に向けて心がけてきたこと】

探究活動にどれだけ熱心に取り組んできたかをアピールするように心がけました。また、取り組んだ内容をできるだけ論理的にまとめるようにしました。

【当該選抜を受験した感想（当該選抜で印象に残った点）】

2次選考で行った探究活動に関するプレゼンテーションと質疑応答は高校時代に何度も取り組んできたことなので、自信をもって対応することができました。

【当該選抜の合格後から入学するまでの間に、入学後の学修のために学んでいること（大学が行う入学前教育を含めて）】

大学で用意している入学前教育のE-ラーニングの他に、入学する学科の学びに必要な科目について、高校の学習内容の復習をしっかりと行うようにしていました。

【当該選抜を受験して、入学後の学びにおいて役立った点は何か。】

高校時代の探究活動を通じて論文を書いたこと、パワーポイントで発表資料を作成したことが、大学での授業やレポート作成等において論理的にまとめる力に結びついていると感じています。

【当該選抜の受験を考えている人にメッセージ】

探究成果活用型選抜は高校時代に探究活動を頑張っている人には、自分の成果をアピールしてその成果を評価してもらえる入学者選抜なので、是非受験をして欲しいと思います。


- 田中 入試広報部次長 へのインタビュー

【当該選抜のアピールポイント】

2021年度入試より導入した総合型選抜「探究成果活用型選抜」は、「高校の総合的な学習（探究）の時間における課題探究学習等の経験者で、その経験や成果を生かして大学進学後も専門分野を学びながら技術者、研究者を目指す意欲のある」受験生を募集します。

理工系分野に興味を持ち、学校の授業等でテーマを設定して探究学習に取り組み、学校内外でその成果を発表した経験のある生徒が対象となり、「多面的基礎学力（数学・英語の基礎的運用能力）を有する」「志望する分野の科学技術をチームで共に学び、国際社会の中でそれを生かす意欲と関心とを有する」という全学のアドミッション・ポリシーに基づく2段階の選抜で、多面的・総合的な評価を実施しています。第1次選考では数学と英語の基礎学力調査、及び「探究活動書類」の審査を実施し、第2次選考で探究学習の成果をプレゼンテーションと質疑応答を行い主体性や意欲を評価します。

東京女子大学「知のかけはし入学試験」

選定区分：  多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- 本入試受験予定者を対象とした「挑戦する知性」奨学金を設置
- 学納金相当額・寮費相当額を卒業までの4年間にわたって給付

参照：知のかけはし入学試験 特設サイト
<https://www.twcu.ac.jp/main/admissions/dept-info/bridge.html>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：現代教養学部
募集人員：20人（学部全体の約2.2%）
入学者数：15人（志願倍率約1.3倍）

【選抜方法】

- 【第一次選考】志望理由書、活動報告書、出身学校調査書、外国語資格・検定試験の成績に基づいた書類審査
- 【第二次選考】講義、講義の要旨、小論文、グループディスカッション、面接、基礎学力検査（数理科学科のみ）
- 小論文・グループディスカッションは講義と関連した内容

取組の理念、背景にある課題意識等

- 地方に在住する者や経済的理由により進学が困難な者も含め、**本入試が受験生と本学の学びをつなぐ“かけはし”となり、入学後の学びが将来のキャリアへとつながる“かけはし”になる**ことを願い本入試制度を立ち上げた。
- 本入試名称にもなっている“かけはし”という言葉には、本学の初代学長である新渡戸稲造が、大学の入学試験に際し、面接官に向け「太平洋の橋になりたい」と大志を述べた逸話も踏まえてつけられている。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 教育理念、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーのもと、**自ら考え、行動しようとする高い学習意欲**を求める。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 経済的理由により進学が困難な女子生徒に対して、**総合型選抜に奨学金制度を付ける**ことで、年内に進路を決定できるようにしている。
- **学納金相当額（入学金（入学時のみ）・授業料・教育充実費）を卒業までの4年間にわたって給付**する。自宅からの通学が困難な寮寮入寮者には、さらに寮経費相当額を卒業までの4年間にわたって給付する。
- 入試自体は**多面的・総合的評価を行う入試**として機能し、リーダーシップのある、意欲の高い学生を多く得ている。

取組を実施する体制

- 委員長1名、及び各専攻から1名選出された12名の委員からなる**知のかけはし入試運営委員会が入試を実施・運営**している。
- 月に1回の対面での委員会を開催し、第一次選考・第二次選考について担当を定め、準備を行っている。
- **委員会は教職協働で運営**し、第一次選考評価の一部については、事務職員が担当している。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 入学試験に経済的な条件をつける場合、公平性を損なうという懸念があったため、**出願資格の中に経済的な条件を設けるのではなく、本入試受験者のみを対象とした奨学金制度を別建てで設立**した。
- これにより、奨学金採用者は、入学後も周囲に奨学金を受給していることがわかりにくいという利点もある。

負担軽減の工夫

- 経済的な条件を出願資格の中には含めず、本入試受験者のみに申請資格を限定した奨学金制度により満たすことで、**新たに総合型選抜を作ることなく運用**ができています。

一特徴

多面的・総合的評価を行う入試

志願者の意欲・個性・学力・資質を出願書類、英語外部検定試験の成績、講義の要旨、小論文、グループディスカッション、および面接等により多面的・総合的に評価します。出願時までには修得した学力、および情報を整理分析する力、論理的に思考する力、課題を発見する力、リーダーシップ、自分の意見を表現する力などを評価します。

一奨学金

「挑戦する知性」奨学金

4年間給付(学費・寮費)


返還不要

知のかけはし入学試験合格者限定

※入試出願と同時に奨学金の申請が必要です。
※申請には条件等があります。
※採用された場合は、入学を辞退することはできません。
※毎年継続審査があります。
※詳細は、本学公式サイト掲載の募集要項をご確認ください。

東京女子大学「知のかけはし入学試験」

- 本入試受験予定者を対象とした「挑戦する知性」奨学金を設置
- 学納金相当額・寮費相当額を卒業までの4年間にわたって給付

選定区分： 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

参照：知のかけはし入学試験 特設サイト
<https://www.twcu.ac.jp/main/admissions/dept-info/bridge.html>

学内検討のスケジュール

- 平成27年度前期に、**成績優秀かつ経済的理由で進学することに困難をかかえる女子生徒にも学びの機会を開く入試制度**の検討を開始した。
- **各専攻から1名を選出した新入試制度検討委員会**を立ち上げ、3グループ（①入試の趣旨・求める能力・出願資格の作成、②英語外部検定試験の検討、③出願書類・選考方法の検討・趣旨との関連付け）に分かれて検討を重ね、11月末に入試制度の概要を決定し、教授会での承認を受け、12月に学外に公表した。
- 平成28年3月に入試日程・要項案・配点等を決定し、3月末のオープンキャンパスで発表を行った。
- 平成28年11月に初回入試を実施。

入学後教育との連結方策

- 11月上旬には合格発表を行い、早期に入学が決まるため、入学後スムーズに自身の専攻の学びにつながるよう、**入学予定者を対象とした入学前教育を実施**し、入学前から専攻での学びのサポートを行っている。

取組の成果の検証結果

- **入学者全員の追跡調査を実施**（GPA、進路、アドバイザーまたはゼミの担当教員からのコメント等）。
- **本入試で入学した学生の約47%がGPA3.0以上、約78%がGPA2.5以上**と多くの学生が高い評価を受けている。
- 担当教員からのコメントからも発言の積極性、論理性等を高く評価するものが多く、アドミッション・ポリシーで定める「**自ら考え行動しようとする学習意欲の高い**」学生を獲得できていることがうかがえる。

好事例選定委員会委員コメント

- 経済的理由により進学が困難な女子生徒に対して、総合型選抜に奨学金制度を付けることで、年内に進路を決定できるため、**教員の負担が少なく学生も安心して進学**できる。
- 「挑戦する知性」奨学金の申請資格で、基準額を一律とせず、**給与所得世帯と給与所得以外の世帯の場合で異なる基準を設けているのは、現実に即した運用**と言える。

- 学生インタビュー 栗本 歩夏（くりもと あゆか・現代教養学部人文学科歴史文化専攻 1年）

【知のかけはし入学試験を知ったきっかけや印象を教えてください。】

東京女子大学を知った際に入試方法についても調べていたので、ホームページで知りました。当時の私は自己アピールが苦手で「小論文とディスカッションなんて上手くできないだろうな」と思っていました。しかし、過去の問題の講義動画を見て自分の意見を考えることの楽しさに気づき、加えて、奨学金制度も設けられていることに魅力を感じました。



【知のかけはし入学試験受験を決めた時の周りの反応を教えてください。】

元々私立大学に進学することを経済的理由から両親に反対されていたため、東京女子大学を受けたいと話したところ「奨学金制度のある知のかけはし入試なら受けても良いよ」と言われるような形でした。高校の先生にもなぜ東京女子大学に行きたいのかを話し、知のかけはし入試を受け、もし不合格でもその後の入試も東京女子大学しか受験しないという意志を尊重していただきました。

【大学で何を学んでいますか。】

1年生ではアジア史、日本史、西洋史のすべてをバランス良く勉強しています。他にもキリスト教、英語、スペイン語、心理学や理系の授業など幅広く学んでいます。中でも第二外国語として履修したスペイン語の授業がとても楽しく、これからも学び続けたいと考えています。

【受験生へのメッセージ】

受験生のみなさんは今何かしらの目標に向かって頑張っている最中だと思います。「学校の先生になりたい。」「〇〇大学に合格したい。」「どれも素敵な目標だと思います。しかし、その目標の前にみなさんはどんな人になりたいですか？知のかけはし入試は、**なりたい自分像を作り、向き合い、そのために必要だと考えた学問への愛を大学に伝える入試**です。努力は裏切るかもしれませんが、皆さんの学問への愛は結果がどうであれ、この先の人生も裏切らないと思います。勇気をもってチャレンジしてみてください。

【教員からのコメント（現代教養学部人文学科哲学専攻 大谷 弘（おおたに ひろし）准教授）】

本入試で入学した学生は、自分の選択した学問へのコミットメントが強いことが特徴です。入試にグループディスカッションを取り入れていることもあり積極性の高い学生が多いですが、それも単に表面的な「調子のよさ」という意味での積極性ではなく、学問的な関心の強さに支えられた内実のある積極性となっています。例えば、人文学分野の学生であれば、文献をしっかりと読み込むといった日常的な努力を背景として、演習などで興味深い議論や論点の提起を行うことができている。本入試受験予定者を対象とした給付型奨学金制度もあり、実際にこの制度がなかったら大学進学をあきらめていた学生にも学問的学びを提供できており、本入試が本学で是非学びたいという意欲ある受験生と、知への好奇心を充足させる学びの場とを結ぶ「**かけはし**」になっていると感じています。

東京都市大学「学際探究入試（機械・電気系）タイプ2」

選定区分： **A** 総合的な英語力の評価・育成

- 8つの英語資格・検定試験を活用し、基準をクリアした者のみ出願可
- 入学後は60単位以上を英語による授業で進めるプログラムに参加

参照：東京都市大学 学際探究入試
<https://hirameki.tcu.ac.jp/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜

対象学部：理工学部（電気電子通信工学科）

募集人員：5人（学部全体の約0.8%）

※タイプ1・2及び「総合型選抜（2段階選抜制）」の合計入学者数：2人（志願倍率2.0倍）

【選抜方法】

- 8つの英語資格・検定試験のいずれかにおける一定の級・スコアを出願要件とし、調査書・志望理由書に加え、**全て英語による面接で選抜**。
- 面接では、志望動機、入学後に行う「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムへの理解、簡単な日常会話力を確認。

取組の理念、背景にある課題意識等

- これまでの日本は、自動車産業など参入障壁の高い製造業が中心の「資本集約型社会」で世界をリードしてきたが、現在の世界のビジネスはITを中心とした「知識集約型社会」に移行。
- まさにゲームチェンジ時代を迎えた今、先進的な教育研究を実践し、社会変革のリーダー、かつ、**国際性豊かな次世代のイノベーター**（革新者）を育成する目的で開始。

アドミッション・ポリシーとの関係

- アドミッション・ポリシーにおける求める人材像として、「多面的な思考力と幅広い視野を持って自らの考えを述べることができ、**社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人**」を掲げている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 全て英語による面接で選抜（受験生1名に対して面接官2名。約15分。）。
- **入学後は以下の2つのプログラムに参加**。
 - ・「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム
→AI・ビッグデータ・数理データサイエンス（必修）に加え、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりに応じた科目を統合的に学修。
 - ・**国際イノベーター育成オナーズプログラム**
→60単位以上を英語による授業・ディスカッション・レポートにより学修。

取組を実施する体制

- 面接試験は、受験生1名に対して面接官2名。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 英語での面接試験を行うに当たり、**外国人教員及びネイティブ並みの面接官の選定に苦労**した。

負担軽減の工夫

- 面接において、統一のフォーマットにより**評価となるポイントを予め決め、判定基準を明確化**することにより、面接官による判定の違いが出ないようにした。

入学後に参加するカリキュラムの特長

国際イノベーター育成オナーズプログラム

- ・ 「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムと接続し、幅広い教養と深い専門性を学ぶとともに、**国際性あるイノベーターの養成**を目的としています。
- ・ 専門科目を含む **60単位以上の授業、討論、レポートを英語にて学び進める**。
- ・ 参加学生は希望する研究室への優先配属が可能です。
- ・ 大学院一貫教育が受けられ、大学院の早期修了も目指せるプログラムです。

「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム

これからの社会で新しい価値を創造し、新時代の「ものづくり」を切り拓くことができる人材の育成を目指し、ゲームチェンジ時代で活躍するための力を身につける本学独自の教育プログラムです。

	文理横断・学修の幅を広げる			分野融合	グローバル・幅広い教養と統合的な学び
当事業	ひらめきづくり 14単位	ことづくり 14単位 48単位	AI・ビッグデータ数理 データサイエンス 20単位	ものづくり(機械×電気) 48単位	ひとつづくり 28単位
	革新的なイノベーションをもたらす ソリューションを提案する人材育成			幅広い教養と深い専門性を両立した人材育成	
従来	PBL 3単位	専門基礎 理工学基礎 30単位	専門科目 学科の専門 60単位	自由 自由 12単位	共通教育科目 語学・教養・体育 19単位

学科の卒業要件を満たしながら、本プログラムも修了することが可能で、**文理横断**や**分野融合**をさせながら、**幅広い教養と深い専門性を両立させたカリキュラム**を実現しています。

東京都市大学「学際探究入試（機械・電気系）タイプ2」

選定区分： **A** 総合的な英語力の評価・育成

参照：東京都市大学 学際探究入試
<https://hirameki.tcu.ac.jp/>

- 8つの英語資格・検定試験を活用し、基準をクリアした者のみ出願可
- 入学後は60単位以上を英語による授業で進めるプログラムに参加

学内検討のスケジュール

- 令和3年12月頃より、**学部長会議、学科教室会議及び「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム運営委員会からの当該入試を新設したい旨の相談**があり、翌年1月上旬に担当部署である入試センターに打診があった。
- その後、入学センター及び入学試験委員会等での議論を重ねた結果、入試大綱に含めることを決め、令和4年度より当該入試を新設した。

入学後教育との連結方策

- 上記のとおり、**入学後は「国際イノベータ育成オナーズプログラム」に参加し、60単位以上を英語による授業・ディスカッション・レポートにより学修**。
- また、接続する「「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム」との相乗効果により、社会変革のリーダー、国際イノベーターを育成。

取組の成果の検証結果

- 英語による授業の成績等、**令和4年度入学者から追跡調査を実施**する予定。

好事例選定委員会委員コメント

- 募集人数は少ないものの、入学後に必要となる英語力を明確に示している点や、英語を用いた入学後の学びと連携させている点は評価できる。
- 英語での面接員の確保や基幹科目を英語で講義できる教員の確保など、**他の大学がすぐに導入できることばかりではないが、モデルケースにはなり得る**。今後の追跡調査が待たれる。
- 入学後の外国人教員による電気の専門を英語で学ぶ授業などを含む「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム参加を要件とした総合型選抜において、英語資格・検定試験の活用やオール英語による面接を実施しており、**入試と入学後の学びを接続している点が評価**できる。

- 入学生へのインタビュー

【当該選抜を受験しようと思ったきっかけは何か。】

当初から、都市大のひらめきプログラムに興味を持っていて、都市大の受験は決めていたため、定期的に情報等を確認していました。そこで、新入試である学際探求入試のタイプ1、2を見つけ、興味をもちました。また、自分にとって、与えられた時間内にグループで問題解決を目指すタイプ1は、自信はありませんでした。しかし、中高ともに学校で英語に触れる機会が多かったり、英検やスピーチの際に、英語で意見を伝えたりした経験を少し活かせるのではないかと感じ、タイプ2の受験を検討しました。他にない、新鮮さや特殊さと自分に合っている入試形式に惹かれました。

さらに、当初は、推薦やAOを考えていませんでしたが、何校も受けるハードスケジュールをこなせる自信が無く、この入試は単願ではなく併願可であったため、心の余裕や安心材料としての期待等も込めて、受験を決意しました。

【当該選抜の受験に向けて心がけてきたことは何か。】

想定質問に対する回答の丸暗記ではなく、どうしてそう答えるのかについてきちんと自分の中でまとめるようにしました。自分のやりたいこと、なりたい像等、将来のビジョンを掲げられるよう、深く物事や自分のこと、自分が興味・関心を持つ事柄を再度確認し、調べたり、吸収したりして、自分の言葉で伝える力を身につけるように心がけました。

さらに、自ら英語の先生にお願いをして、面接練習・指導を受けました。

【当該選抜を受験した感想（当該選抜で印象に残った点）は何か。】

面接を担当してくれた先生方が、笑顔で対応してくれたので、落ち着いて答えることができました。私の考えや答えに対して、コメントしてくれたり、深掘りしてくれたり、とても充実した面接だったので、良い経験となりました。

【当該選抜の合格後から入学するまでの間に、入学後の学修のために学んでいることはないか。】

入学後、英語に触れる機会は多いと考え、時間に余裕のある入学前に、WritingやListeningなど、映画や短い動画、会話を聞くなど、受験期よりは娯楽や趣味感覚で、英語に触れようと過ごしました。

【当該選抜を受験して、入学後の学びにおいて役立った点は何か。】

自分のビジョンや意見を自分の言葉で伝える力を少しつけることができたこと。他者から感銘を受けて、感じるのが時折ありますが、そのまま自分のものとして吸収するのではなく、以前から持つ自分の将来像や考えと合わせることで、何から影響を受け、自分の考えがどう更新されたのかを、自分で把握していくことです。考えや希望は、変わることがありますが、自分自身の変化も認識することで、面接やディスカッションで質問をされても、迷いなく答えられるし、将来に影響する選択肢を選ぶ際にも、スムーズに決めることができます。

【当該選抜の受験を考えている人にメッセージ】

とにかく自分の言葉で、伝える力をつけることです。自己PRなどを考えるとき、あまり他人に話したくない場合は、紙に書き出すなどでも良いので、自分の夢やビジョンをアウトプットして、形にしていけることを心がけることで、ぜひ自分なりの軸を作って欲しい。入学後のあらゆる活動で、軸をもとに考えて行動できるので、爽やかな学生生活の第一歩に繋がると思います。

創価大学「PASCAL入試」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた選抜方式により、行動特性を測定
- 入学前に高校生の能力を高める「育成型入試」

参照：PASCAL入試 特設サイト

<https://www.soka.ac.jp/admissions/exam-info/department/pascal/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜

対象学部：経済・経営・法・文・教育・国際教養・看護学部

募集人員：106人（学部全体の約7%）

入学者数：126人（志願倍率約1.7倍）

【選抜方法】

- 第1次選考：書類審査
- 第2次選考（経済・経営・法・文・教育・国際教養・看護学部）：アクティブラーニングの一手法である **LTD（Learning Through Discussion、話し合い学習法、以下同）方式のグループワーク**及び面接試験を実施。

※学部ごとに、英語運用能力・部活動・海外経験・インターンシップ・生徒会活動や高等学校卒業までに取得した検定・資格などを書類審査で評価。

取組の理念、背景にある課題意識等

- アクティブラーニングを行うための学生のコンピテンシー（行動特性）を、ペーパーテストではなくパフォーマンスによって評価することにより、**主体性や協働性**といった適性を見る。
- 受験生がどのように主体的に自分の意見を表現するか、他者の意見に接してどのように教材への理解を深めていくかなど、**一人一人の主体性、協働性といった行動特性の能力・資質**を見る。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 高等学校までの教育で育成が期待される「学力の3要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）にわたる基礎的な学習能力を備えていることを求めていることと、中でも**主体性・多様性・協働性の測定**に当たる。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- LTDは**予習とグループディスカッションで構成**され、受験生は予め提示された予習教材を読み、各自で予習ノートを作成。入試当日のグループディスカッションでは、持参した予習ノートを手がかりにグループで教材の内容について話し合う。
- 評価者（監督員）は、受験生がどのように主体的に自分の意見を表現するか、他者の意見に接してどのように教材への理解を深めていくかなどを観察し、**一人一人の主体性、協働性といった行動特性（Competency）の能力・資質、また思考力・判断力・表現力を評価**する。
- 進学相談会や動画による説明、ホームページでの概要説明、選考方法でもある**LTD体験会を実施**している。
- アクティブ・ラーニングの手法である「LTD（Learning Through Discussion）方式のグループワーク」という特色ある試験を実施する（取り組む）ことにより、受験生の行動特性（態度）を測定することができ、学力の3要素の1つ「主体性・多様性・協働性」を評価できる。
- 受験前のLTD体験会でのディスカッションを通じて、よりよいパフォーマンスができるようになることは、いる。**入学前に高校生の能力を高める「育成型入試」の一面も持つ**

取組を実施する体制

- 選考方法の1つであるLTDでは**5人1グループに2人の評価者を配置**する。併せて**面接試験も2名の面接担当**が付く。LTD評価者並びに面接担当の人数が多くなる。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- オンラインで選抜を実施するため、選抜中に通信環境が途絶えず安定させることが課題であった。受験生には**LTD体験会、通信環境テストを複数回行う**ことでオンライン操作の要領を理解してもらい、選抜をスムーズに進行できた。

負担軽減の工夫

- **オンラインの試験実施**により、LTD評価者、面接担当以外の役員を減らすことができた。

※創価大学「PASCAL入試とは」チラシより

LTD方式（経済・経営・法・文・教育・国際教養・看護学部）

- 第一次選考 <書類審査> 学部ごとの観点に基づき書類の審査を実施



※学部ごとの観点についてはホームページで詳細をご覧ください。

- 第一次選考合格後 <予習実施> 第一次合格者は第二次選考に向け下記の予習を実施



※1,400～6,000文字量 ※2大学独自様式

- 第二次選考 <Zoom> オンライン会議システム「Zoom」を利用した選考



※1グループ4～6名で実施。



LTD方式
紹介動画はこちらから

選考方法

Discover your potential

SOKA University

創価大学「PASCAL入試」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた選抜方式により、行動特性を測定
- 入学前に高校生の能力を高める「育成型入試」

参照：PASCAL入試 特設サイト

<https://www.soka.ac.jp/admissions/exam-info/department/pascal/>

学内検討のスケジュール

- 中教審答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」（平成26年12月）を受け、事務レベルで評価方法について検討を開始。（参考到他大学の育成型AO入試、評価方法を調査）
- その後、以下のスケジュールで検討。
 - ・平成27年11月 第1回多面的評価検討ワーキンググループを発足し、具体的な検討を開始。〈獲得したい学生像〉〈出願資格〉〈評価方法〉〈定員規模〉〈試験内容〉〈試験日程〉について、その後月1回開催し検討。
 - ・平成28年6月 入試委員会、常任理事会に「入試改革提案書」として提出。
 - ・平成28年12月 入試広報ビデオ「LTDとは何か？」を作成
 - ・平成29年1月 各学部より出願資格について報告
 - ・平成29年2月 入試要項の検討
 - ・平成29年3月 LTD担当教員の人選
 - ・平成29年3月 オープンキャンパスにて「体験！アクティブラーニング、体感！LTD」として、LTD体験企画を実施。（5月にも実施）
 - ・平成29年5月 キャンパスガイドにて入試日程を広報
 - ・平成30年度入試より実施

入学後教育との連結方策

- 本学では**多くの授業で、「LTD」を含むアクティブラーニングを取り入れている**。PASCAL入試による入学生は、旺盛な意欲と積極性をもって、授業内の課題へ取り組んでいる。
- グループで討論をする際にはグループをまとめる役割を担ったり、正解がない問いに対して、多角的な視点から考える経験を通して、思考の深まりを感じながら、**PASCAL入試を通じて培った能力を十分に発揮して授業に臨むことで好成绩**にもつながっている。

取組の成果の検証結果

- 本選抜による入学者の成績を定期的に検証し、一定の学業成績を収めていることが判明している。本学が推進するアクティブラーニング教育に主体的に取り組んでいる結果と理解できる。

好事例選定委員会委員コメント

- **LTD方式のグループワークの具体的な実施方法が公開**できると、各大学の参考となる。
- **受験前の入試チャレンジプログラム、学部ごとの特色に応じた特色ある選考、事後のプログラムと体系化**されており、大学が求める生徒像を明示し、それにあてはまる高校生が受験するという素晴らしい入試制度である。
- 学生へのインタビュー 経済学部3年 大志万直子（おおしまん なおこ）

【PASCAL入試を受験しようと思ったきっかけは何か。】

高校2年の夏に創価大の受験を決めたが、学力に不安があったことと元々ディスカッション等のグループで話するのが得意であったため。また、多面的・総合的に人間性で選抜する受験に強く共感したため。

【PASCAL入試の受験に向けて心がけてきたことは何か。】

私は話すのが得意でこの受験方法を選んだため、グループディスカッションなどで逆に話しすぎず、他のメンバーの話を傾聴すること。

【PASCAL入試を受験した感想（印象に残った点）は何か。】

グループディスカッション中は「自分が受験で合格する」という感覚よりも、「みんなと協力してこのディスカッションを深めよう」という雰囲気、緊張せずともいい話し合いができたと思う。

【PASCAL入試の合格後から入学するまでの間に、入学後の学修のために学んだこと（大学が行う入学前教育を含めて）はあるか。】

学習面での不安はつきなかった。特に英語が苦手だったため入学前教育の他にも英語のワークに取り組んだ。

【PASCAL入試を受験して、入学後の学びにおいて役立った点は何か。】

自分の意見を話す機会では本当に役立っている。学生の中で発言のレベルが高い、と尊敬する学生はPASCAL入試合格者であることが多く、合格者のコミュニケーションレベルが総じて高いと感じている。

【PASCAL入試の受験を考えている人にメッセージ】

大学独自の受験形態のため不安はつきないと思いますが、「オープンキャンパス」や「PASCAL入試チャレンジプログラム」など、在学生から話を聞ける機会が多いので、興味がある方は一度イベントに参加して、実際の学生から話を聞いてみて欲しいです！

※PASCAL入試チャレンジプログラムとは、LTD体験会でのグループワークとキャリアプランニングを通して、PASCAL入試で求められる力を養うとともに、進学への目的意識をより明確にすることによって、入学後の学びにも直結する力を養う育成型のプログラムです。



産業能率大学「キャリア教育接続方式」

- 3日間のキャリア開発プログラムと連動した選抜
- 総合的な探究の時間等による高校での多様な学びをキャリア構想に発展

選定区分： **Ⅰ** 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：産業能率大学 キャリア教育接続方式
<https://www.sanno.ac.jp/exam/system/special/career.html>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：経営学部
募集人員：20人（学部全体の約4.2%）
入学者数：62人（志願倍率：5.6倍）

【選抜方法】

- 「**自己のキャリア構想**」に基づく課題解決プランの**プレゼンテーション**（10分程度）と**プレゼンテーション内容と自己記述書に基づく面接**（30分程度）を実施する。
- また、産業能率大学主催の「**キャリア開発プログラム（3日間）**」の受講を出願要件とする。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 開設当初は、高校でのキャリア教育が発展することを狙いとして構築した。
- 特定の教科に限定することなく、**高校での学びを通じて自己のキャリア構想を持ち合わせていること**を求めている。
- 総合的な探究の時間等によるキャリア教育で培われた自己の将来構想が本学のアドミッションポリシーと合致することを期待している。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 「**自分の将来キャリアを真剣に考え、常に向上心を持っている。**」及び「**主体的に課題を発見し、他者と協働して取り組むことができる。**」の2項について具現化し、測定することを目的としている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- **プレゼンテーションは、自己のキャリア構想に基づく課題解決プラン**とし、テーマは自由としている。
- **受験生自身が課題を設定**し取り組むことで、問いを立てる力を評価することが可能となっている
- 本学主催のキャリア開発プログラムと連動した入試方式にすることで、高校での多様な学びをキャリア構想に発展させ評価し、この入試を通じて**高校生自身の成長も促す**内容となっている。

取組を実施する体制

- 受験生のプレゼンテーションを多面的に評価するため、**1人に対して8名以上の評価者**を置いている。
- プレゼンテーションを実施する教室での**デモプレゼンテーションをすべてのオープンキャンパス時に実施**しており、教室環境について理解をはかっている。
- また、**プレゼンテーションソフトの使用方法についても随時電話あるいはLINEチャットで対応**している。プレゼンテーションまでの待ち時間に配慮し、最大でも60分程度になるよう集合時刻も数回に分けている。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 入試開設当時、出願要件としてキャリア教育での成果物の提出を求めていたが、普通科高校出身者では該当する成果物がなく、受験できない生徒がほとんどであった。
- そのため、**普通科の高校生にも受験機会を与える**ため、本学主催の「**キャリア開発プログラム（3日間プログラム）**」の**受講と連動した設計**とすることで、高校での学びをもとに、プログラムを通じて**キャリア構想に発展させる**ことができるようにした。

負担軽減の工夫

- キャリア開発プログラムでは、**毎年新規に担当できる教員を育成**することで、担当教員ごとの受入れ人数を軽減させている。
- **面接を教職協働で実施**しているため、面接稼働の教員負担を大きく軽減できている。職員についても面接対応した職員は一般選抜など他の入学者選抜での稼働を減らすことで、全体バランスを最適化している。

高校生のためのキャリア開発プログラム

1日目 働くことの意味を考えてみよう！

- ① オリエンテーション：3日間の進め方
- ② 他人を知り、自分を知ろう
- ③ 働くことの意味を考える（グループワーク）
- ④ 「プロジェクトX 挑戦者たち」（DVD視聴）
- ⑤ 働くことの意味とキャリア形成（講義）

2日目 社会の中の自分達の役割について考えてみよう！

- ① 企業社会の変化（講義）
- ② 3年で辞める若者たち（グループワーク）
- ③ 自分の将来をデザインしよう マインドマップの作成
- ④ 本日のまとめと3日目の準備（講義）目標を持つことの意味

3日目 社会が求める力について考えてみよう！

- ① グループワーク：「自己の将来キャリア開発構想」のグループ内での共有
- ② 社会人基礎力について
- ③ 「2日間を振り返り、さらに良いグループワークをするには」
- ④ 全体のまとめ

産業能率大学「キャリア教育接続方式」

選定区分： **I** 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

- 3日間のキャリア開発プログラムと連動した選抜
- 総合的な探究の時間等による高校での多様な学びをキャリア構想に発展

参照：産業能率大学 キャリア教育接続方式
<https://www.sanno.ac.jp/exam/system/special/career.html>

学内検討のスケジュール

- 平成18年頃、総合学科での課題研究を活かせる入試方式の開設について、総合高校の複数の学校長から要請を受け、検討を開始した。
- 入試委員会で検討し、キャリア教育を繋ぐ入試として設立することとし、キャリア開発構想の提出とプレゼンテーションによる選抜制度として、平成19年度に開設した。

入学後教育との連結方策

- 初年次ゼミでは、地方創生をテーマとした課題に取り組み、受験時に学び得た経営学やマーケティングの知識・スキルを活かした提案の場を設けている。
- **Project Based Learningを多く取り入れ**、本方式で培われた主体的に課題を発見する力、あるいは他者と協働して取り組む力を実践の場に移す機会を設けている。

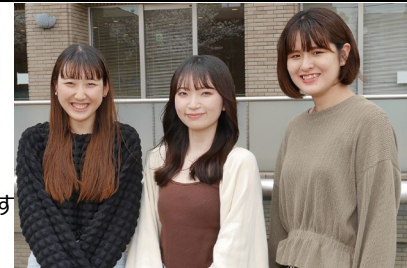
取組の成果の検証結果

- 本学では、大学教育再生加速プログラムで評価されたように、**民間のアセスメントテストにてジェネリクススキルの到達度を把握**しており、**リテラシー、コンピテンシー共にバランスよく高得点**であることを把握している。

好事例選定委員会委員コメント

- オープンキャンパスだけでなく、「キャリア開発プログラム」を経ての入試になっており、入試という機会を通しての**生徒のキャリア意識を高めることが実現**されている。
- **高校での探究的な学びとの接続を図る**と、さらに有効な高大接続の入試となるだろう。

- 学生インタビュー 豊田純怜（とみた すみれ・経営学部4年）
安彦ゆり菜（あびこ ゆりな・経営学部3年）
高橋藍衣（たかはし あおい・経営学部2年）



【なぜキャリア教育接続入試を受験しようと考えた？】

苦手なことから逃げ続けてきた自分を変えるため。

キャリア教育接続方式という入試に出会うまでの私はとにかく人前で自分の意見を話すということが苦手で、発表がある時には身体や声が震えて頭が真っ白になってました。幼少期からずっとこのことがコンプレックスで克服したいという気持ちよりもどうやったらその場をやりすごせるかばかりを考えて、逃げ続けていました。

そんな中でSANNOのキャリア教育接続方式に出会い、最初はこの入試で受けた先輩の姿を、ただただ凄いな、自分とは全然違うなと思いながら見ていました。SANNOのオープンキャンパスに足を運んでいくうちに、先輩たちも最初からこんなに話せた訳では無く、自分を変えるための努力をしてきたということを知りました。そして自分に置き換えた時に、「人前で話すことから逃げ続ける自分のままでいいのか」、「やり過ごせなくなる時が来るまでずっとこのままでいいのか」という思いに駆られた私は、あえて自分が苦手な人前で話すことを伴うこの入試方式での受験をすることで、自分を変えようと考えました。

【この入試を受験して感じた自分の変化やまわりから言われた変化など】

- ・入試を終えて、今まで感じたことのない達成感があり、成功体験ができたことで、自信が持てるようになりました。
- ・自信を喪失した過去の事象も、自分の心の成長につながっていたのだと認められるようになったことで、家族や地元の友人に対する感謝の気持ちが大きくなった。
- ・家族や友人から、「肩の荷が下りたように明るくなった」「生き返ったみたいに人生楽しそうに見えるよ」「社会的になったね」など言われた。

【この入試を受けて入学後に役立っていると感じていること。】

この入試は、課題解決のプレゼンをゼロから自分で作るため、社会に出て必要になる基礎的な能力を自然と養うことができます。それらの力の必要性・重要性を入学前から実感することで、困難なことでも挑戦しようと思うようになり、しっかり物事を考えるようになったのだと感じる。

それと同時に、自分に何が足りてないのかについても必然的に考えるため、自身の課題は何か、またどうしたら解決できるのか、今後自分は何をすればいいのかという自分の未来についても考える癖がつくようになりました。

この入試はその名の通りやったことが自分のキャリア形成に繋がる入試だと思います。

【受験生へのメッセージ】

今、将来の夢が決まっていなくて進路選択を迫られている方も多いと思います。実際、私も大学選択するときに明確な夢があったわけではありません。しかし、私はこのキャリア教育接続方式という入試に出会い、自分の将来を考えるきっかけとなりました。

この入試は、自分と向き合える入試です。最後まで成し遂げた時には、想像以上の達成感と自分の成長が待っていました。この経験から、受験生のみなさんには後悔の無い進路選択をするために自分の将来について考えて欲しいと思います。また、どんなことにもリスクはつきものだとすることを念頭に置き、自分の納得のいく選択をして欲しいと思います。

新潟大学「総合型選抜（理系科目/文系科目選択型）」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 理系・文系両テーマの講義受講とレポートを全受験者に課し、分野を超えた視野の広い総合的な探究力を評価
- 文理融合型での課題解決型学修を謳う創生学部の学修プログラムとの接続で、さらに探究的な素養を増長

参照：新潟大学HP「総合型選抜」
https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/admission_office_exam/

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
 対象学部：創生学部
 募集人員：20人（学部全体の約31%）
 入学者数：20人（志願倍率約1.3倍）

【選抜方法】

- 大学入学共通テストで基礎学力を測るとともに、学力の3要素のうち、課題探究意欲、表現力、コミュニケーション能力を適切かつ高い精度で評価するため、**講義の聴講及び講義に関する課題レポート**（初日：主として思考力・判断力・表現力を問う）、**面接**（2日目：主として主体性・多様性・協働性を問う）と2日間に渡る充実した内容の選抜を実施。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 創生学部は、**文理や学問分野の垣根を超え**、学生がそれぞれの興味関心に則して設定した課題の探究や解決に必要なと考える学びを自ら組み立てる、**学生本位の主体的な学修の場を提供**していることが特徴。
- 幅広い領域への興味関心、論理的思考、科学的根拠に基づいた課題探究・解決に必要な基礎学力や意欲、表現力、コミュニケーション能力を測り、従前の学生主体の取り組みとの接続性を高める観点から、令和3年度入学者選抜より当該総合型選抜を導入。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 創生学部では以下の入学者を求めている。
 - ・課題探究・解決に関心を持ち、将来のキャリアを自ら見つけることに熱意のある人
 - ・基礎的な学力のある人
 - ・特定分野にとらわれず幅広い領域に興味関心のある人
 - ・他者とのコミュニケーションを積極的に行い自己表現できる人
- 講義に関する課題レポートと面接を課して、**課題探究意欲、表現力、コミュニケーション能力**を評価。

課題レポート：思考力・判断力・表現力を評価
 面接：主体性・多様性・協働性を評価

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 試験当日に初めて聞く専門性の高いテーマについての講義を受け、その後関連した課題についてのレポートを課すことにより、**事前対策や受験技術等の表層的準備では対応の難しい、真に修得すべき能力**である生きる力・創造性を伸ばす上で基盤となる思考力・判断力・表現力をより適切に評価している点。
- **理系・文系両テーマの講義受講とレポートを全受験者に課す**ことで、入学後に学生自身が設定する課題・テーマに対し、分野を超えて多様なアプローチで対応できる、**視野の広い総合的な探究力**を評価している点。

取組を実施する体制

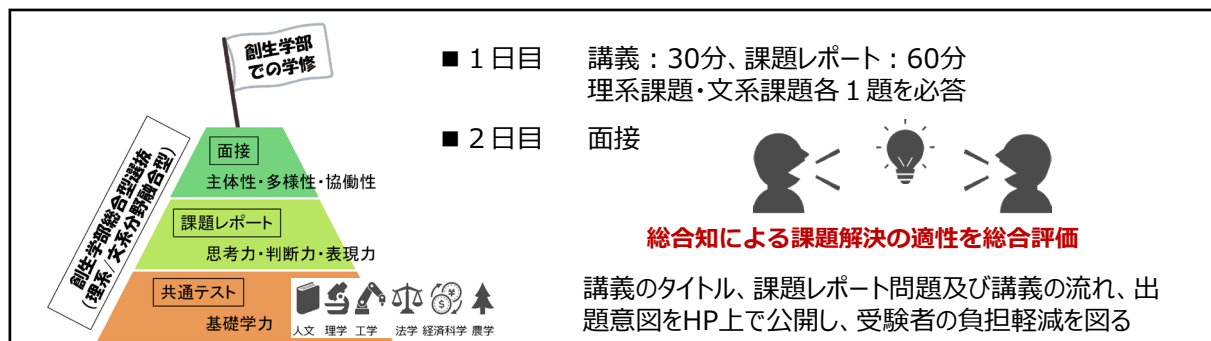
- 「講義に関する課題レポート」について、課題素案の意見交換・確定、講義内容と配付資料の確定・点検、レポート課題の内容の確定・点検等の業務を**創生学部入試委員会**で実施。
- 作問担当は素案作成から当日の講義及び採点まで、点検を除く一連の工程全般に関わるため一般的な入試よりも負荷が高いが、入試委員会には、**創生学部と他学部の橋渡し**を担い、**原則数年で交代する流動性の高い領域担当教員を配置**し、この教員が作問を担当する体制として、**負担の分散と出題分野の予測困難性を同時に担保**。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 導入当初、試験内容に関する情報が少ないため受験者にとって分かりづらく負担感も高かった点が課題となった。
- 解決策として、**出題意図、レポート課題及び講義概要を学部ホームページ上で公開**して透明性を高め、受験者の負担軽減を図った。
- さらに**出前講義、オンライン学部説明会**を実施するなど、受験者への周知に努めている。

負担軽減の工夫

- **主と副の作問担当教員を選任**して業務を相互にチェックしながら連携して行う。原則として**副担当は次年度の主担当**となり、**副担当での経験やノウハウを円滑に継承できる体制**として負担軽減を図っている。また、主担当が試験当日に体調不良や事故等で欠席する場合のバックアップ体制も兼ねる。
- 受験者の体調不良に備え、別室を設けZoomによる同時配信を行ったが、準備及び試験時間中の確認に大きな負担があった。この解消のため、令和5年度入試での講義は事前録画対応とした。



新潟大学「総合型選抜（理系科目/文系科目選択型）」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 理系・文系両テーマの講義受講とレポートを全受験者に課し、分野を超えた視野の広い総合的な探究力を評価
- 文理融合型での課題解決型学修を謳う創生学部の学修プログラムとの接続で、さらに探究的な素養を増長

参照：新潟大学HP「総合型選抜」
https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/admission_office_exam/

学内検討のスケジュール

- 高校での探究型活動が本格的に実施され始め、高校や地域等での新しい学びや活動の中で、課題の発見や探究・解決に強い興味関心をもち、高い学修意欲を持つ生徒の増加傾向が見られたことに対応し、**文理融合型での課題解決型学修を謳う新潟大学創生学部としては率先してその受け皿になるべき**と考えた。
- 従来的一般選抜後期日程及び推薦型入試を発展的に解消し、自己推薦で受験できる総合型選抜の導入を教授会決定（平成30年6月）し、WGにおいて詳細設計を実施。
- 11回に及ぶ総合型入試設計WG、及びその後の9回の入試委員会審議、高校教諭への現地聞き取り調査（3校）の他、課題探究型学修高大接続ネットワーク登録者アンケート調査（令和元年8月）、総合型選抜試行試験（同年9月）、学部内での総合型選抜関連FD（同年11月）等により十分な準備・検討を進め、令和3年度入学者選抜より当該総合型選抜を導入。

入学後教育との連結方策

- 幅広い社会課題を取り扱う基礎ゼミや学外学修、その他の課題解決型学修やグループワーク形式の授業等を適切に運用し、その優れた素養を更に増長すべく、効果的な学修機会を提供。
- 学生が大学での学びに円滑に接続できるよう、**担任による個人面談を実施**し、学生の多様な興味関心や課題意識にきめ細かく対応した指導を実施。
- 入学後の文理融合による課題解決型学修を進める上で、特に数学Ⅲの未履修は障害になる恐れがある。**学生が自主的に行う数Ⅲゼミ**の組織を呼びかけ、教員がその学修をサポート。

取組の成果の検証結果

- **第三者企業により全国レベルでの客観的検証**を実施。
- 現時点ではまだデータが十分ではなく統計的揺らぎが大きい段階ではあるが、総合型選抜を経て入学した学生は、**多様な経験を持ち、他者との協働やコミュニケーション能力が高い傾向**は認められる。
- 全国的に見ても先駆的な創生学部の学びの形を可視化して内外に伝えることの重要性を、学生に対しても十分説明して理解頂いており、客観的検証のためのアンケート調査の回答時間は1時間を超える重厚な内容であるものの、毎回初年次学生でほぼ10割、3年次学生でも9割超の回収率を実現している。
- 今後もデータを蓄積し、総合型選抜による受験者の能力評価精度や入学後の学修効果を分析していく。

好事例選定委員会委員コメント

- 創生学部での学びを意識した選抜方法として、**講義とレポート・面接を組み合わせる入試**を行っており、公開された過去問からも入学後に必要な能力が感じ取れる点で、好事例となりうる。
- 講義を受講した後に論述問題に解答する方式は既に他大学でも実施されているところであるが、**講義が30分、解答時間が60分とコンパクトに実施**している点に工夫がある。面接なども丁寧にしながらも客観的な評価も組み合わせるなど、他大学でも検討の余地がある取組である。
- 理系・文系両テーマの講義受講とレポートを全受験者に課すことで、分野を超えて多様なアプローチで対応できる総合的な探究力を評価している。また、**第三者企業による客観的検証を実施している点は評価**できる。今後創生学部から大学全体での取組に広がるとよい。

- 新潟大学創生学部 熊野 英和（くまの ひでかず） 教授 へのインタビュー

【当該選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について】

入学者に対し、主体的学修者へと導くための基礎データの取得を目的として、思考力（批判・協働・創造）、姿勢・態度（レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーション等）、経験を測るアセスメントテストを実施したところ、当該選抜を受験して入学した学生については、**多様な経験を持ち、特にリーダーシップ、コラボレーション、経験に関する総合スコアについて高い傾向が認められ、創生学部において総合知による課題解決を主導する上で大切な資質を備えている。**

これらの能力は、Society5.0の到来で急速に移ろいゆく社会を生き抜く上で不可欠なものと考えており、幅広い社会課題を取り扱う基礎ゼミや学外学修、その他の課題解決型学修やグループワーク形式の授業等を**社会変化に合わせ**て機動的に更新しながら、入学者の優れた素養を更に増長すべく、効果的に魅力ある学修機会を提供していく。

【当該選抜の創設の過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したか。】

高等学校関係者の率直なご意見を伺うため、対面での聞き取り調査を3校に対して実施した他、高校教員向けの学部説明会などの場でも意見を伺った。新潟大学創生学部から入試情報や本学部の取り組み、高大接続事業実施報告等を登録している高校へ情報提供を行う「課題探究型学修高大接続ネットワーク」を設立し、その登録者に対するアンケート調査を実施した。また、高校教員を招いて総合型選抜試行試験等を実施するなどにより、きめ細かなニーズの把握や意見交換を十分に行いながら準備・検討を進めた。このような対面でのコミュニケーションにより、書面での調査では得られない本音の声が取れ、当該選抜の制度設計に大いに役立った。

神戸大学「志」特別選抜

選定区分：Ⅰ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

Ⅱ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

- 書類審査から最終選抜を通して「学力の3要素」を多面的・総合的に評価
- 高校の学びを入試で評価し、入学前教育で大学の学びへ橋渡しを行う

参照：神戸大学高大接続卓越グローバル人材育成センター 特設サイト
<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/index.html>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜

対象学部：文学部、国際人間科学部、法学部、医学部、工学部、農学部、海洋政策科学部

募集人員：62人（学部全体の約3%）

入学者数：32人（志願者数114人、志願倍率1.8倍）

【選抜方法】

- 第1次選抜：高大接続卓越グローバル人材育成センターアドミッションオフィス部門（旧アドミッションセンター、以下「センター」）が**書類審査、模擬講義・レポート、総合問題（記述式問題）**により実施。

※センター内で過去問及び出題・評価のポイントを公開

※一部の学部等では英語資格・検定試験のスコア等を出願要件に設定

- 最終選抜：学部・学科・専攻ごとに、小論文、面接、口頭試問、プレゼンテーション、グループディスカッション、模擬実習、実技試験等を組み合わせ選抜を実施。

【入学前教育】

- 合格者に対し、**およそ3ヶ月間の入学前教育**を実施している。入学前教育は大きく分けて、スクーリング（2回）と大学における学びの予行演習の位置付けの課題、教科学習及び探究学習に分かれている。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 求める学生像の「2. 旺盛な学習意欲を持ち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生」「3. 常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持った学生」の測定（第1次選抜）や、「4. コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生」の育成（入学前教育）にあたる。
- 求める要素の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」（最終選抜）にあたる。
- 入学者に対しては、それぞれ下記の能力を求める。
 - ・模擬講義・レポート：大学で講義を受ける状況を想定し、その講義を受け身で聞き流すのではなく、積極的に理解し、発展的な学修をする能力
 - ・総合問題（理系）：理系の学問を学ぶ上で必要な理科・数学に関する基礎的な知識・理解力、英語の読解力・文章表現力、論理的思考力及び数学的思考力
 - ・総合問題（文系）：文系の学問を学ぶ上で必要な日本語や英語の読解力・判断力・文章表現力・論理的思考力及び数学的思考力

取組の理念、背景にある課題意識等

- 「**学力の3要素**」を多面的・総合的に評価する、神戸大学全体で取り組む総合型選抜として実施している。
- 記述式問題としては、思考力・判断力・表現力だけでなく、**入学後の講義についていくための学力を担保する立場からも総合問題として出題**している。
- 大学入学共通テストを課さない「志」特別選抜は、12月中に合格が決定し、その後4月の入学までには4ヶ月の期間がある。**その時期をどのように過ごすかによって、入学後の学修に大きな影響があると考え**入学前教育を実施している。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 「志」特別選抜は**大学入学共通テストを課さない総合型選抜**であり、書類審査を通した「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」の評価のほかに、第1次選抜として、模擬講義・レポートや総合問題を受験生に課すことで「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測る点に特色がある。
- 最終選抜においても、**単純な知識の暗記・再生では解答不可能**である点に特色がある。
- 入学前教育は、国立大学法人評価委員会による平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果において、「主体的な学びの実践の場を設定し、高校までの学びと大学での学びの溝を埋める「学びの転換」を促す橋渡しを行っている。」と評価された。

取組を実施する体制

- 第1次選抜は、**センターの部門長の他2名の専任教員と2名の入学試験コーディネータが配置**されており、この**5名**が主に「志」特別選抜第1次選抜の実施にあっている。
さらに各部署に所属する出題検討委員・採点委員や退職教員の協力を得て実施している。
- 最終選抜は、**作問から採点までを各学部教員が担当**し適切に実施している。
- これまで実施した「志」特別選抜合格者数は平均すると33名である。入学前教育はセンター教員（4名）が主として行い、問題演習の添削については、課題提出後迅速に受講生にコメントを返すために、**外部の高等学校退職教員や現職教員に添削補助を依頼**して実施している。

負担軽減の工夫

- 各部署教員の入試業務の負担が増える中、「志」特別選抜については**退職教員を出題検討委員や採点委員として任命**できるようにした。
- 入学前教育受講生に神戸大学の一時アカウントを付与し、**神戸大学の学習管理システムBEEF**を利用して入学前教育を実施することで**資料や答案回収の手間を軽減**している。
- 問題演習の添削については、センター教員の負担を減らす目的のほかに、課題提出後迅速に受講生にコメントを返すため、外部の高等学校退職教員や現職教員に添削補助を依頼して実施している。



※スクーリング（グループワーク）の様子

神戸大学「志」特別選抜

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

II 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

- 書類審査から最終選抜を通して「学力の3要素」を多面的・総合的に評価
- 高校の学びを入試で評価し、入学前教育で大学の学びへ橋渡しを行う

参照：神戸大学高大接続卓越グローバル人材育成センター 特設サイト
<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/index.html>

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- センター設置当初はセンター長と専任教員2名の3名体制で発足した。センター発足時より機能強化経費終了後の体制が懸案事項であったが、令和2年3月末で専任教員1名が定年退職し2期務めたセンター長も定年退職により交代するため、令和2年度からのセンターの運営をどのようにするかが課題となり、本部人件費により2名の入学試験コーディネータ（非常勤）を採用することができた。
- 令和2年度からは、**センター長、専任教員2名、入学試験コーディネータ2名の5名体制**で運営することとなった。令和4年10月に**アドミッションセンターから高大接続卓越グローバル人材育成センターへ改組拡充**した。
- 当初、理系は英語・数学・理科、文系は国語・英語・数学の問題演習を実施していたが、入学前教育実施後の入学前アンケートでもう少しアカデミックで入学後の講義につながる内容の方が良いという意見があり、令和3年度「志」特別選抜入学前教育では、数学で文部科学省作成の「行列入門」のテキストを利用したオンデマンド講義を実施し、入学後の線形代数学につながる学習を行った。国語では問題演習のかわりに、「大学での学びとは何か」などの課題に取り組み、大学での学びの予行演習とした。

学内検討のスケジュール

- 平成27年6月に**入学試験委員会のもとに「入試改革推進本部」を設置**し本学の入試改革の検討に着手した。平成28年9月開催の入学試験委員会において「神戸大学における入試改革基本方針について」が採択され、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学者選抜として平成31年度神戸大学「志」特別入試の予告を行った。
- 平成31年度神戸大学「志」特別入試の実施にあたっては、**神戸大学附属中等教育学校を対象とした高大接続研究入試**（平成29年度入試、平成30年度入試）と**在学生をモニターとしたアドミッション・オフィス入試の試行**（平成28年9月、平成29年9月）を基に第1次選抜の内容について検討を行い、入試改革推進本部の審議を経て書類審査、模擬講義・レポート、総合問題を試験区分とする特別入試とすることを決定した。
- 上記の準備期間を経て、平成30年9月に第1回目の神戸大学「志」特別入試を実施した。なお、令和2年度入試以降は、「志」特別選抜と名称を改めた。

取組の成果の検証結果

- 学力担保の検証としては、第1次選抜及び最終選抜ともに入学後の成績の追跡調査を行っている。
- 第1次選抜合格者の成績については、「志」特別選抜開始後の各学年において、**入学者の平均累積GPAは一般選抜入学者のそれよりも上に位置**している。
特に、令和2年度「志」特別選抜入学者では、入学者の45%が上位20%に属している。
- 入学前教育終了時にアンケートを実施し、次年度に向けての改善を行っている。また、入学から1年を経た時期に2年次アンケートを実施し、その中でも入学前教育が入学後の学習に役立ったかを聞いている。令和3年度「志」特別選抜で入学した学生に行った2年次アンケートでは、**入学前教育が入学後の学修に役立ったかとの質問に、そう思う・ややそう思うで回答者の9割以上**になる。

※スクーリング（発表会）の様子



入学後教育との連結方策

- 令和4年10月にアドミッションセンターから高大接続卓越グローバル人材育成センターへ改組拡充を行い、その下に4部門「**戦略企画部門**」「**高大連携部門**」「**アドミッションオフィス部門**」「**入学後教育部門**」を設置しており、連結方策について現在検討を行っている。

好事例選定委員会委員コメント

- 書類審査から最終選抜を通じて「学力の3要素」を多面的・総合的に評価している。高校の退職教員を雇用して実施するなど、**高校の実情に配慮できるシステムも構築**できている。
- **出題の狙いや過去問を公開することで、測ろうとする能力を志願者に明確に説明している点や、作問や採点の体制を整備している点**が他大学の参考になる。
- 総合型選抜である「志」特別選抜では、書類審査を通じた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」の評価と、第1次選抜における模擬講義・レポートや総合問題により**学力の3要素を丁寧に評価し、積極的に理解し、発展的な学修をする能力**を求める。APの「旺盛な学習意欲を持ち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生」「常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持った学生」との整合性も取れている。
- 入学前教育が3か月と長期にわたっている。入学前の問題演習課題設定及び添削など、**キメが細かい指導**がなされている。
- 高校での主体的な取組等を評価する「志」特別選抜の入学者に対し、入学前の3ヶ月間に大学での学びにつながるスクーリングや探究学習を行っている。**高校の学びを入試で評価し、入学前教育で大学の学びへ橋渡しをする高大接続の効果的な取組**と言える。

- 書類審査から最終選抜を通して「学力の3要素」を多面的・総合的に評価
- 高校の学びを入試で評価し、入学前教育で大学の学びへ橋渡しを行う

参照：神戸大学高大接続卓越グローバル人材育成センター 特設サイト
<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/index.html>

- 学生へのインタビュー 工学部応用化学科4年 南埜早紀（みなみの さき・平成31年度入学者）



【当該選抜を受験しようと思ったきっかけは何か。】

高校2年の冬に「志」特別選抜の存在をパンフレットで知り、TOEICスコアが出願要件を満たしたので「志」特別選抜を受けようと思いました。

【当該選抜を受験した感想（当該選抜で印象に残った点）は何か。】

最終選抜の化学実験の時に、一回目で間違っているだろうなという結果が出てしまい急いでやり直しましたが、それでも思うような結果は得られなくてかなり焦りました。口頭試問で正直に話すと、先生方は失敗したことをネガティブに捉えていなくて、なぜ失敗したと思うのか、どのようにすればよかったのかといったことを質問されました。正解を出すということより、考える過程や追求しようとする姿も見てくださっているのだとそのとき感じました。口頭試問をしているときは、実験も失敗したしもう駄目だと思いましたが、先生とのディスカッションが楽しくてもう落ちていてもいいやと思えるぐらい有意義な時間でした。

【当該選抜を受験して、入学後の学びにおいて役立った点は何か。】

「志」特別選抜を受験するにあたり、なぜ神戸大学が良いのか、神戸大学に入学後何をしたいのかなど、入学後のビジョンを明確にする必要があったため、入学直後からそのビジョンをもとに様々なことに挑戦することができました。また「志」特別選抜の繋がりにより、神戸みらい博士育成道場という人材育成プロジェクトの存在を知り、そこで学生メンターとして働かせていただく機会が得られました。

【受験時に持っていた「志」は入学後にどのようにつながりましたか。】

大学入学後に、「志」特別選抜を受験した頃から掲げていた海外留学や神戸大学グローバルチャレンジプログラムに参加するという目標を達成することができました。

神戸大学卒業後はUCLA (University of California, Los Angeles)の大学院に進学し、Medicinal Chemistryについて勉強・研究する予定です。UCLAは私が高校生の頃から憧れていたドリームスクールだったため、合格通知から1ヶ月経った今もまだ夢心地です。この1年間研究と並行しながら出願準備もしてきて本当に辛い日々も多かったですが、神戸みらい博士育成道場のメンターとして関わることができたことを含め、本当に色々な方々に出会い、サポートして頂き周りに恵まれて幸せだなあと痛感する日々です。

【当該選抜の受験を考えている人にメッセージ】

「志」特別選抜は自分の経験や個性、強みを生かして勝負することができる点が最も特徴的であると思います。チャレンジするには少し勇気がいるかもしれませんが、経験する価値は十分あると思うので、是非チャレンジしてみてください。

芝浦工業大学「公募制推薦入学者選抜（女子）」

選定区分： **ウ** 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- 女子学生獲得のために入試制度を設け、奨学金とセットで実施
- 理工学分野での女性の活躍を支援する全学体制を確立

参照：入学者選抜情報サイト

https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/selected_candidates.html

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜

対象学部：全学部

募集人員：31人（学部全体の約1.7%）

入学者数：17人（志願倍率約1.2倍）

【選抜方法】

- 以下の選考を行い多面的・総合的に評価。
- ・書類審査：調査書・自己推薦書・推薦書
- ・筆記試験：数学、理科（物理または化学）
- ・面接試験：志望動機や入学後のプラン、将来のビジョンなどについてのディスカッションを通じて、分野の適性や表現力、論理的思考能力、コミュニケーション能力を評価

取組の理念、背景にある課題意識等

- 我が国において理工学分野に進む女子生徒が少ない。この**ジェンダーギャップを解消し、より多くの女子エンジニアを育成することで日本の国際競争力の低下に歯止めをかける必要があるという課題意識**から本入試制度、奨学金制度を設置した。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 本学での学修、研究を強く志望し、本学で自己成長・自己実現を成そうと志望する人
- 数学及び自然科学（物理学、化学、生物学などの科目）の基礎を学び、理工学と科学技術に対して強い興味関心を持ち、将来この学問を通じて我が国と世界の持続的発展に貢献しようという意思を持つ人
- 大学において幅広い教養と経験、さらにコミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ人
- これを基に、入学者に以下の能力を求めている。
 - ・理工学分野に強い関心と意欲を持つこと
 - ・数学と理科の基礎学力があること
 - ・英語資格検定試験スコアを一定数以上保有

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 教育や研究は多様性の中で大きな効果が得られ、またイノベーションも多様性の中から生まれており、近年特に最先端技術開発や製品開発等様々な場面において女性の活躍出来る機会が広がっている。このような**社会的ニーズに応えるため**、本学では、理工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒に対して、公募制推薦入試制度を設け、一定の基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、論理的思考力やコミュニケーション力のある人を広く募集している。このなかで、**女子学生獲得のために入試制度を設け、奨学金とセットで実施している点が特色**である。

取組を実施する体制

- 基礎学力を確認するためのテストの内容作成、面接実施の段取り作成、評価のためのルーブリック作成など、総合的な評価のための準備が個別学力試験のみによる試験よりもかかっていることが一般的な入試よりも労力を要する部分となっている。
- 令和5年度入学者選抜から全学部全学科を対象を広げたことにより、全学で女性の活躍を支援する体制を構築した。

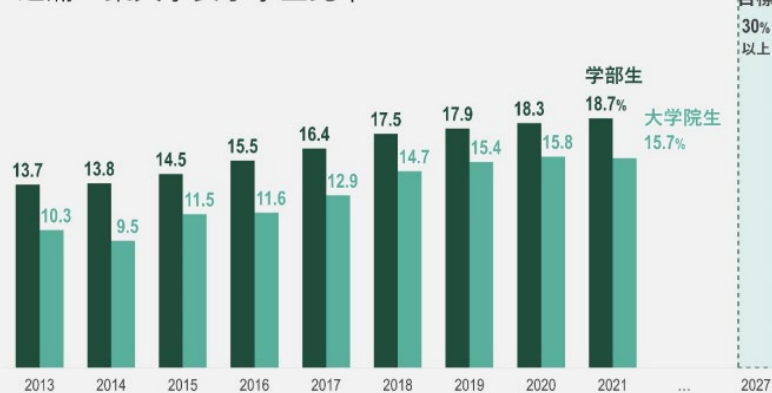
実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 女子が少ない学科とともと女子が多い学科があり、本入試を始めるにあたって学科間で温度差はあったことが課題であった。
- その解決策として大学全体として女子学生比率を30%にしようという目標を掲げ、このなかで、**工学部長（現・学長）が、学内の入試関連の委員会や当該対象学科の教員に対し情熱を持って主体的に動き説明をして回り、学内の理解を得た。**
- 並行して事務部門が新たな入試方式としての制度設計を行い、最終的に学内の機関で正式な承認にこぎつけている。

負担軽減の工夫

- 大学側の実施上の負担軽減策として、面接委員として多くの教員を配員することで一部の教員への負担を軽減している。
- 志願者確保策として、女子高校生向けサイト「シバウラSWITCH」や女子生徒限定の座談会の開催等、**積極的な情報発信による広報の強化を図っており、高校生、保護者、社会の意識を少しでも変えていくための様々な施策を展開している。**

芝浦工業大学女子学生比率



▲芝浦工業大学女子学生比率の推移



芝浦工業大学「公募制推薦入学者選抜（女子）」

選定区分： **ウ** 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- 女子学生獲得のために入試制度を設け、奨学金とセットで実施
- 理工学分野での女性の活躍を支援する体制を確立

参照：入学者選抜情報サイト

https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/selected_candidates.html

学内検討のスケジュール

- 本制度は平成30年度入学者選抜から開始した。
- はじめは特に女子が少ない機械系・電気系に絞って募集したが、より女子学生の獲得に力を注ぐことになり、令和4年度入試では工学部全学科に拡大した。
- 令和5年度入試から全学部全学科対象としている。

入学後教育との連結方策

- 入学後の学びを支援するための体制（経済的支援）として、**公募制推薦入学者選抜（女子）による入学者には全員、入学金相当（28万円）の奨学金を給付**している。
- 入学後教育との連結方策として、合格者に対して、入学後の教育に備えて、『基礎科目の e-learning による「入学前講座」』及び『入学予定学科が設定した課題に取り組む「学科独自課題」』の入学前教育を実施している。

取組の成果の検証結果

- 当該選抜方式は、平成30年度入学者選抜より実施しており、令和4年春に本入試で入学した学生の1期生が卒業したところで、具体的な成果の検証はこれからとなるが、**当該卒業生は全員就職・進学しており、希望の進路に就いている状況**となっている。

好事例選定委員会委員コメント

- 公募制推薦入試において、理工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒を基礎学力テストや面接で評価している。現在では全学的に拡大して実施され、入学金相当の奨学金給付制度もあり、**理工学分野での女性の活躍を支援する体制を確立**している。
- 基礎学力や関心・意欲などのバランスの取れた選抜を行っている点や、（他の選抜区分と一緒に）入学前教育が実施されていて、入学後との接続が考慮されている点が評価できる。面接委員を増やして選抜の負担を軽減するなど、持続可能性も考慮されている。**情報関連や化学系の学科では倍率が高く、志願者を集めることにも成功**している。

- 新井 剛（あらいつよし） 芝浦工業大学アドミッションセンター長へのインタビュー

【当該選抜を創設しようと思ったきっかけは。】

教育や研究は多様性の中で大きな効果が得られ、また、イノベーションも多様性の中から生まれます。近年の社会環境の変化により最先端技術開発や製品開発などさまざまな場面において女性の活躍出来る場が広がっています。一方、OECD のデータを見ると、日本の理系女性の活躍度は世界平均から程遠い状況があり、なんとかしなければならないという想いが本学にはありました。

小学校低学年までは算数や理科が好き、得意という女子も多いですが、高学年から中学、高校と進むにつれて理系離れが起きます。わが子に「女の子が理系に進んでどうするの？」「男性から敬遠されるし就職もできないよ」と言う保護者の影響力が強く、これがそのまま日本社会の意識として理系、とりわけ理工学分野におけるジェンダーギャップを生んでいます。高校の進路指導の現場でも、理系の女子は医学部や薬学部ばかりで工学部はなかなか勧められないと聞きます。ですが実際は、本学に入った女子学生はイキイキと学び、誰もがうらやむようなトップメーカーや国の研究機関などに就職しており、産業界のニーズもとてもあると感じます。これほどの可能性を秘めた人々を工学から遠ざけてはいけません。そのためには、現在の延長線上の取り組みでは女子学生は集まらなないと考え、新たな入学者選抜制度を設けようという発想に至ったのです。

【当該選抜の制度設計で苦労した点は、どのように克服したのか】

はじめは学内でも「逆差別ではないか」という意見もありましたが、「18歳人口が減少する中で男女比の偏りを放置していたら、日本の国際競争力がますます低下してしまう」という危機感から、当時の工学部長（現学長）の山田純先生らが対象学科の教員などに粘り強く説得して回りました。多くの女子学生に来てもらいたい一方、基礎学力の担保が重要であり、そのバランスを取るために出願要件及び試験内容をどうするか議論を重ねました。

【当該選抜のアピールポイントは。】

2023年度入試より全学部全学科に募集対象を広げ、応募者数が約3倍になりました。これにより、工学のあらゆる分野に女性エンジニアを輩出することを目指しています。また、本選抜の入学者には**入学金相当（28万円）の奨学金も給付**しています。

【当該選抜の創設の過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したか。】

先行事例のヒアリングを実施し参考にしました。また、本学ではこれ以前より男女共同参画推進室を設けて、女性教員比率や女性管理職比率の向上に向けて数値目標を掲げて取り組み、卒業生も交えた女性のネットワークづくりの活動も行ってきました。この中で、OGから、エンジニアとして働く女性社員が結婚・出産・育児などのライフイベントを迎えるにあたり、**多くの企業が体制整備を進めており、仕事と家庭を両立して長く働ける環境が整っている**という話を聞きました。産業界が女性エンジニアを求めている中で、工業大学の使命として、積極的にジェンダーバイアスを取り払う努力をし、理工系の分野に女性を輩出しなくてはならないと感じました。

【理工系分野に多く女性を輩出するために今後どうしていくのか。】

創立100周年となる令和9年までに**女子学生比率を30%**にすることを目標としています（現在19.1%）。そのためにさまざまな取り組みを同時進行で進めています。例えば、複数の女子校を対象にサマーインターンシップを開催、1週間程研究室で受け入れ、研究の一端に触れてもらいました。今後はこれを高校の探究学習の支援に発展させ、総合型支援につなげる構想があります。インターンシップ参加者から届いた感想を見ても、大変意欲ある生徒ばかりで、こういった人材を見出していきたいという思いを新たにしているところ。そのほかの女子校からも相談が寄せられていることもあり、高校現場でも女子生徒を理工系分野に送り出そうという前向きな空気が作られつつあるのを感じます。そのほかにも、女子高生向けの Web サイトの制作や女子生徒限定の座談会の開催等、積極的な情報発信に努めています。当面の目標は女子学生比率30%ですが、それが私たちのゴールではありません。その先で工学教育をどう進化させ、日本社会をリードしつつ国際貢献を果たすかを考えています。この先、**理系分野の女性を特別視する「リケジョ」という言葉使われなくなり、男女半々となる**ことが当たり前になるような、そんな時代になってほしいと思います。



横浜市立大学「特別公募制学校推薦型選抜」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 面接を重視した3段階の選抜方式による時間をかけた多様な資質の評価
- 5つの観点別の面接室を巡るMMI (Multiple Mini Interview) 方式による面接

参照：横浜市立大学HP「特別公募制学校推薦型選抜」
https://www.yokohama-cu.ac.jp/admissions/admissions/special-selection/sp_koubosei/index_igaku.html

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：学校推薦型選抜
対象学部：医学部医学科
募集人員：18人（学部全体の約19%）
入学者数：16人（志願倍率約3.2倍）

【選抜方法】

- 基礎学力の担保とともに面接を重視した選抜方式とすべく、1次書類審査（英語資格の得点を要素の1つとして設定）、2次面接審査、3次審査として大学入学共通テストを課す3段階の選抜とし、特に**2次面接審査**では、**各受験者が5つの観点別の面接室を巡るMMI (Multiple Mini Interview) を実施**。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 学力検査が主たる指標とならざるを得ない一般選抜は、十分に見出して評価することができていない医師や医学生に求められる幅広い人間性を、実質的に評価する仕組みとして導入した。

アドミッション・ポリシーとの関係

- 入学者には、「医学への志望理由」「社会性」「協調性」「独創性」「倫理性」などの**幅広い人間性**や、**高いコミュニケーション能力、問題解決思考の学習意欲**などを求めている。
- 本選抜方法は、医学科で掲げている全てのアドミッションポリシーに関係するといえるが、特に「高い倫理観」「柔軟性と協調性を備えた高いコミュニケーション能力」「自ら問題を発見し、解決するための学習意欲を有する」という点の具現化に密接に関係している。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 1次書類審査、2次面接審査、3次審査として大学入学共通テストを課す3段階の選抜とし、**基礎学力の担保とともに面接を重視した選抜方式**としている点が特色ある取組である。
- 特に2次面接審査では、各受験者が5つの観点別の面接室を巡るMMI (Multiple Mini Interview) を実施している。
- 全体の人的コストがやや大きくなるものの、**1人の受験生に対して観点を絞った面接を複数回行う**ことは、**評価のプレを抑えつつ多様な資質を評価する事が可能となる手法**であるため、他大学等の参考となる特色ある取組である。

取組を実施する体制

- 通常の**入試運営部会**の他に、MMI方式の面接課題を特に検討する**入試検討委員会**を医学科に組織し、その両者をアドミッションズセンターのベテラン専門職がサポートして運営に当たっている。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 学校推薦型選抜では、高校の評定値を指標に用いるべきではあるが、高校間のレベル差の課題がある為、1次書類審査の判定基準には、評定値とともに、**客観的な指標として英語資格**も取り入れている。
- 一般選抜では実現の難しい面接に重きを置いた選抜を行う事と、基礎学力の担保との両立をはかることが課題であるが、最終合否判定基準において、面接と共通テストの配点を同じウエイトとする（面接点の差が大きく作用する）一方、共通テストの最低得点基準として、一般選抜の第1段階選抜合格者の平均点を設定している。

負担軽減の工夫

- 1人の受験生に5つの面接室を用意するのは、多くの評価者を必要とするため、医学科内部のみで人選するとなると負担がかなり大きくなるが、医療における多職種連携の発想を取り入れ、**入試や教務の事務職員、看護学科教員も評価者に加わっている**。

2次：面接審査 (MMI) 異なる観点のミニインタビュー (約10分) を5回：1000点



横浜市立大学「特別公募制学校推薦型選抜」

選定区分： **I** 思考力・判断力・表現力の評価・育成

- 3段階の面接を重視した選抜方式による時間をかけた多様な資質の評価
- 5つの観点別の面接室を巡るMMI (Multiple Mini Interview) 方式による面接

参照：横浜市立大学HP「特別公募制学校推薦型選抜」
https://www.yokohama-cu.ac.jp/admissions/admissions/special-selection/sp_koubosei/index_igaku.html

学内検討のスケジュール

- 平成28年度入試（平成27年11月出願受付）に先立つこと平成24年8月に入試検討委員会を設置して検討を始め、平成26年の半ばにはMMIを柱とした骨格が固まり、実施に至った。

入学後教育との連結方策

- 本学では、TOEFL-ITP500を到達基準とする全学必修の英語科目やその上級レベルの科目群を揃え、また医学科においても海外での実習プログラムを用意しており、英語資格を出願要件や1次審査の要素として設定している事により、**入学後の語学学習への橋渡し**を担っている。

取組の成果の検証結果

- 当該選抜での入学者は、**大学での学業成績は一貫して高い傾向**にあり（一般選抜の学生に比して100点法で5ポイント程度高い）、留年者は僅かしか出ないなど、明確に成果が出ている。
- また、一般選抜では特定の私立進学校出身者の割合が多いのに対して、この選抜では、中堅公立校からの出願や入学実績も増えてくるなど、**質を維持した上で入学者層の多様化にも寄与**している。

好事例選定委員会委員コメント

- MMI方式の面接課題を特に検討する入試検討委員会を医学科に組織し、**その両者をアドミッションズセンターのベテラン専門職がサポートして運営に当たる**など、運営面でもよく検討されている。MMI方式もよく練られている。
- 基礎学力を担保しながら、異なる観点で複数回の面接を実施し、その**生徒の意欲などだけでなく、思考力・判断力・表現力も問う仕組み**ができています。**入学後の追跡調査からより良い制度を設計している点も含めて好事例**であると考えます。

- 1次から3次まで、丁寧な評価が行われている。特に2次のMMIの手法を取り入れた面接審査により、多面的に資質を評価している点は評価に値する。**市立大学として地元の高校生に一定の目標を明示している点も評価**できる。一方で、入学後教育との連動については今後に期待したい。

- 学生インタビュー 富田 潤（とみた じゅん・令和3年度入学者）

【受験しようと思ったきっかけ】

大学の受験説明会でこの選抜を知りました。初めは医学科に入るチャンスが増えるのであればなんでも受けたいという気持ちでした。具体的に受験の検討を進めるうちに、自分にぴったりの選抜だと確信しました。

【受験に向けて心がけてきたこと】

生徒会活動や部活動が好きだったので積極的に活動しました。様々な機会をいただけたことに感謝しています。人の前で話す機会、協働する機会や色々な大人に関わる環境に恵まれたことはこの入試にも活かしました。医療の話題はニュースや新聞を見るときに自然と注目するようになりました。

【印象に残った点】

面接官が高校生の自分の話を真剣に聞いてくれたことが嬉しく、印象に残っています。その前提には全体を通した温かい雰囲気でのコミュニケーションがあったと思います。回答の条件を全て満たさず答え、「〇〇という視点ではどうですか？」ともう一度聞かれた場面がありました。回答の不備を指摘され大幅な減点を心配するシーンかもしれませんが、回答形式のミスで不合格になる心配はしませんでした。

【入学後の学びにおいて役立った点】

大学の特徴かもしれませんが、必要なことを満たせばあっさりと学生生活が過ぎていきます。最低限必要なことの多い医学科では尚更です。その環境でよりたくさん学び取ろうという姿勢はこの選抜の経験が役立っていると思います。

【受験を考えている人へのメッセージ】

特別公募制学校推薦型選抜という名前を見て、自分には関係ないと思わないで欲しいです。早くから準備を始め、面接ではあなたの経験や考えをあなたの言葉で10人の面接官に伝えてください。それが皆さんそれぞれの“特別”なのだと思います。



熊本県立大学「くまもと夢実現」学校推薦型選抜

選定区分： **ウ** 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

- 県内の生活保護世帯に属する生徒を対象
- 貧困の連鎖を教育で断ち切るため入学者選抜手数料、入学金及び授業料を免除

参照：熊本県立大学 特別選抜
<https://www.pu-kumamoto.ac.jp/examination/special-selection/>

令和4年度入学者選抜概要

選抜区分：学校推薦型選抜
対象学部：文学部、環境共生学部、総合管理学部
募集人員：3学部で2人以内（大学全体の約0.4%）
入学者数：非公表

【選抜方法】

- 出願要件は、**熊本県内の生活保護世帯**に属し、調査書が4.0以上の者。
- 推薦書・調査書・志願理由書、小論文（文学部・環境共生学部）又は総合問題試験（総合管理学部）及び面接の結果を総合的に判定。

取組の理念、背景にある課題意識等

- 県民に広く**高等教育機会を提供する**という理念のもと、経済的事情を抱える勉学意識の高い進学希望者を対象に実施。
- 安心して就学できる環境を整えつつ、本人の自立等へつなげることも目的。

アドミッション・ポリシーとの関係

- アドミッション・ポリシーにおける求める人材像として、「**地域に根ざし世界に向かって羽ばたこうとする知的探究心旺盛な学生**」を掲げている。

取組が特色あるものとするポイント、理由

- 熊本県内の生活保護世帯に属する生徒を対象。
- **入学者選抜手数料、入学金及び授業料を免除**（授業料については正規の修業年限まで）。

取組を実施する体制

- 試験は他の学校推薦型選抜と同日に実施するが、当日は面接官等のスタッフや面接室を別に確保。
- 本学がこの選抜を行っていることを受験生に知らなくても重要となるが、本学では、**県内の公立・私立高等学校と、例年、入試に関する懇談会を開催しており、その場で本選抜を周知**。

実施に当たって課題となったこと及びその解決策

- 制度導入当初（平成22年度入試）は出願時に成績要件を設けていなかったが、**高等学校である程度の学習意欲・習慣をもち一定の学力をつけていない者は修学に苦慮**していた状況を踏まえ、平成29年度入試から他の学校推薦型選抜（旧推薦入試）と同様に調査書の**評定平均値**（現「全体の学習成績の状況」）が**4.0以上であること**という**出願要件を導入**。

負担軽減の工夫

- 前述の高等学校との懇談会により、本学の個々の職員が綿密な広報活動に努めなくとも、**各高等学校の御理解・御協力のもと、生徒の心情・個人情報管理にも慎重に配慮**しながら、希望者の出願に繋げている。

熊本県立大学

“くまもと夢実現”学校推薦型選抜

出願資格（抜粋）

- ・ 熊本県内の生活保護世帯に属する者
- ・ 調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者

メリット

- ・ 入学者選抜手数料の免除
- ・ 入学金の免除
- ・ 4年間の授業料の免除
（学業成績要件による打ち切りなし）

受験・合格・入学

夢の実現

生活保護世帯の
進学希望者への
高等教育
機会の提供

貧困の連鎖を
教育で
断ち切る

熊本県立大学「くまもと夢実現」学校推薦型選抜

選定区分： **ウ** 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

● 県内の生活保護世帯に属する生徒を対象

● 貧困の連鎖を教育で断ち切るため入学者選抜手数料、入学金及び授業料を免除

参照：熊本県立大学 特別選抜

<https://www.pu-kumamoto.ac.jp/examination/special-selection/>

学内検討のスケジュール

- 平成20年に、勉学意欲の高い生活保護世帯の進学希望者を対象とした新たな推薦入学枠を設ける方向で検討を進めることとし、**新たに立ち上げたプロジェクトチームにて具体的検討**を実施。
- 平成21年6月に新制度の設立を記者発表し、同年11月に初めての**本選抜**を実施。

入学後教育との連結方策

● 他の学校推薦型選抜（旧推薦入試）合格者と同様に以下の**入学前学習支援プログラム**を実施。

①「プレエントランス講座」

実地やオンラインによる主にガイダンスや講義。

（実地で共通テストの問題解答、入学後に専攻で学ぶ教材を使っでの学習 等）

②「入学前の学習支援」

課題を与え、本学教員が個別指導。

（洋書の読書感想文、英語・理科の学力向上のための指導、イベントへの参加・報告、ビブリオバトル 等）

取組の成果の検証結果

● 当該選抜で合格し入学した者は、他の学校推薦型選抜（旧推薦入試）で合格し入学した学生と遜色ない成績を収め卒業・就職。

好事例選定委員会委員コメント

● 意欲はあるが、経済的な環境により進学できない高校生を救うという意味では興味深い。また、小論文と面接により、意欲、表現力なども確かに評価している。**出願時に成績要件を課すように変更するなど、見直しも行われている。**

● 鈴木 元（すずきはじめ）副学長へのインタビュー

【当該選抜を創設しようと思ったきっかけは何か。】

制度創設当時、景気低迷の長期化等により、経済的事情から大学進学を断念せざるを得ない進学希望者が増加していました。

このような状況を踏まえ、熊本県においては、貧困の連鎖を教育で断ち切るという観点から、生活保護世帯から大学等への進学を希望する学生に対し、新たに生活費の無利子貸付制度を設けるなど、進学希望者の修学環境の整備に向けた取組が始まっています。

本制度は、このような県の施策展開に呼応する形で創設することとしたもので、当時の熊本県内の経済情勢や、県民への「高等教育機会の提供」という公立大学のミッションを踏まえ、経済的事情から大学進学を断念せざるを得ない進学希望者の夢を実現するため、勉学意欲の高い生活保護世帯の進学希望者を対象とした新たな推薦入学枠を設けることとしました。

【当該選抜の実施について、気を配っている点は何か。】

受験者が生活保護世帯の生徒であるため、個人情報管理はより慎重に行うこととしています。例えば、試験日に他の選抜の受験者と接触することがないように会場を設定するなど、安心して受験できる環境を整えています。

【当該選抜のアピールポイントは何か。】

入学者選抜手数料、入学金、4年間の授業料の自己負担の心配がないのが、本選抜のメリットです。経済的事情を抱える受験生が、夢を叶えるための大学進学という進路を諦めることなく、安心して受験することができます。

【当該選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について】

出願時には、高等学校における「全体の学習成績の状況」（評定平均値）が一定以上の方を各高等学校長から推薦していただいています。大学としても、入学前に勉学意欲について十分に確認を行い、本学のアドミッション・ポリシーに沿う学生を選抜しています。制度創設以来、10数人の学生を受け入れてきましたが、真面目に学習する習慣のある、大変意欲の高い学生が入学しているという印象です。学費の心配が解消され、本人たちも将来の夢実現に向けて勉学に集中することができているようです。



【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

令和4年度大学入学者選抜実態調査において、総合的な英語力（4技能）の評価を導入していると回答のあった大学は、以下のとおりです。（93大学・短期大学319学部・学科）

小樽商科大学	商学部	東北大学	農学部	千葉商科大学	国際教養学部
公立はこだて未来大学	システム情報科学部	文星芸術大学	美術学部	麗澤大学	国際学部
函館大学	商学部	ものづくり大学	技能工芸学部	麗澤大学	外国語学部
北翔大学	生涯スポーツ学部	明海大学	ホスピタリティ・ツーリズム学部	麗澤大学	経済学部
北翔大学	教育文化学部	埼玉女子短期大学	商学科	神田外語大学	外国語学部
北翔大学短期大学部	ライフデザイン学科	埼玉女子短期大学	国際コミュニケーション学科	神田外語大学	グローバル・リベラルアーツ学部
北翔大学短期大学部	こども学科	開智国際大学	教育学部	東京外国語大学	言語文化学部
東北大学	文学部	開智国際大学	国際教養学部	東京外国語大学	国際社会学部
東北大学	教育学部	城西国際大学	国際人文学部	東京外国語大学	国際日本学部
東北大学	法学部	城西国際大学	メディア学部	一橋大学	商学部
東北大学	理学部	千葉商科大学	商経学部	一橋大学	経済学部
東北大学	医学部	千葉商科大学	政策情報学部	一橋大学	法学部
東北大学	歯学部	千葉商科大学	サービス創造学部	一橋大学	社会学部
東北大学	工学部	千葉商科大学	人間社会学部	東京都立大学	都市環境学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

東京都立大学	健康福祉学部	東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部	芝浦工業大学	建築学部
東京都立大学	法学部	東洋学園大学	人間科学部	順天堂大学	医学部
東京都立大学	経済経営学部	東洋学園大学	現代経営学部	上智大学	神学部
東京都立大学	人文社会学部	青山学院大学	文学部	上智大学	文学部
東京都立大学	システムデザイン学部	学習院大学	国際社会科学部	上智大学	総合人間科学部
東京都立大学	理学部	学習院大学	法学部	上智大学	法学部
目白大学	心理学部	学習院大学	経済学部	上智大学	経済学部
目白大学	人間学部	学習院大学	文学部	上智大学	外国語学部
目白大学	社会学部	國學院大學	文学部	上智大学	総合グローバル学部
目白大学	メディア学部	國學院大學	経済学部	上智大学	国際教養学部
目白大学	経営学部	國學院大學	観光まちづくり学部	上智大学	理工学部
目白大学	外国語学部	芝浦工業大学	工学部	昭和女子大学	国際学部
目白大学	保健医療学部	芝浦工業大学	システム理工学部	成城大学	文芸学部
目白大学	看護学部	芝浦工業大学	デザイン工学部	聖心女子大学	現代教養学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

大東文化大学	法学部	中央大学	法学部	二松学舎大学	国際政治経済学部
大東文化大学	外国語学部	中央大学	商学部	日本体育大学	体育学部
大東文化大学	社会学部	東京女子大学	現代教養学部	日本体育大学	スポーツ文化学部
大東文化大学	文学部	東京電機大学	システムデザイン工学部	日本体育大学	スポーツマネジメント学部
大東文化大学	経済学部	東京電機大学	未来科学部	日本体育大学	児童スポーツ教育学部
大東文化大学	国際関係学部	東京電機大学	工学部	日本体育大学	保健医療学部
大東文化大学	スポーツ・健康科学部	東京電機大学	理工学部	法政大学	法学部
大東文化大学	経営学部	東京電機大学	工学部第二部	法政大学	文学部
中央大学	経済学部	東京理科大学	理学部第一部	法政大学	経済学部
中央大学	理工学部	東京理科大学	薬学部	法政大学	社会学部
中央大学	文学部	東京理科大学	工学部	法政大学	国際文化学部
中央大学	総合政策学部	東京理科大学	理工学部	法政大学	人間環境学部
中央大学	国際経営学部	東京理科大学	先進工学部	法政大学	現代福祉学部
中央大学	国際情報学部	東京理科大学	経営学部	法政大学	キャリアデザイン学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

法政大学	グローバル教養学部	立教大学	経済学部	成蹊大学	文学部
法政大学	スポーツ健康学部	立教大学	理学部	多摩大学	経営情報学部
法政大学	情報科学部	立教大学	社会学部	多摩大学	グローバルスタディーズ学部
法政大学	デザイン工学部	立教大学	法学部	目白大学短期大学部	ビジネス社会学科
法政大学	理工学部	立教大学	観光学部	目白大学短期大学部	製菓学科
法政大学	生命科学部	立教大学	コミュニティ福祉学部	目白大学短期大学部	歯科衛生学科
法政大学	経営学部	立教大学	経営学部	横浜国立大学	教育学部
武蔵大学	人文学部	立教大学	現代心理学部	横浜国立大学	経営学部
武蔵大学	経済学部	立教大学	異文化コミュニケーション学部	神奈川大学	外国語学部
武蔵大学	社会学部	学習院女子大学	国際文化交流学部	関東学院大学	国際文化学部
武蔵大学	国際教養学部	国際基督教大学	教養学部	関東学院大学	社会学部
東京都市大学	理工学部	成蹊大学	経済学部	関東学院大学	経済学部
明治大学	経営学部	成蹊大学	経営学部	関東学院大学	経営学部
立教大学	文学部	成蹊大学	法学部	関東学院大学	法学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

関東学院大学	理工学部	身延山大学	仏教学部	京都産業大学	理学部
関東学院大学	建築・環境学部	松本大学	教育学部	京都産業大学	情報理工学部
関東学院大学	人間共生学部	愛知医科大学	医学部	京都産業大学	生命科学部
関東学院大学	栄養学部	名古屋経営短期大学	未来キャリア学科	立命館大学	産業社会学部
関東学院大学	教育学部	名古屋経営短期大学	子ども学科	立命館大学	国際関係学部
関東学院大学	看護学部	名古屋経営短期大学	健康福祉学科	立命館大学	文学部
東洋英和女学院大学	人間科学部	京都工芸繊維大学	工芸科学部	立命館大学	映像学部
東洋英和女学院大学	国際社会学部	京都産業大学	経済学部	立命館大学	経営学部
田園調布学園大学	人間福祉学部	京都産業大学	経営学部	立命館大学	政策科学部
田園調布学園大学	子ども未来学部	京都産業大学	法学部	立命館大学	総合心理学部
田園調布学園大学	人間科学部	京都産業大学	現代社会学部	立命館大学	グローバル教養学部
上智大学短期大学部	英語科	京都産業大学	国際関係学部	立命館大学	経済学部
金沢大学	融合学域	京都産業大学	外国語学部	立命館大学	スポーツ健康科学部
金沢大学	人間社会学域	京都産業大学	文化学部	立命館大学	食マネジメント学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

立命館大学	理工学部	龍谷大学短期大学部	こども教育学科	摂南大学	農学部
立命館大学	情報理工学部	大阪公立大学	工学部	摂南大学	薬学部
立命館大学	生命科学部	大阪公立大学	獣医学部	摂南大学	看護学部
立命館大学	薬学部	大阪公立大学	現代システム科学域	大阪学院大学	商学部
龍谷大学	文学部	大阪公立大学	農学部	大阪学院大学	経営学部
龍谷大学	経済学部	大阪経済大学	経済学部	大阪学院大学	経済学部
龍谷大学	経営学部	大阪経済大学	経営学部	大阪学院大学	法学部
龍谷大学	法学部	大阪経済大学	情報社会学部	大阪学院大学	外国語学部
龍谷大学	政策学部	大阪経済大学	人間科学部	大阪学院大学	国際学部
龍谷大学	国際学部	摂南大学	法学部	大阪学院大学	情報学部
龍谷大学	先端理工学部	摂南大学	国際学部	関西大学	法学部
龍谷大学	社会学部	摂南大学	経済学部	関西大学	文学部
龍谷大学	農学部	摂南大学	経営学部	関西大学	経済学部
龍谷大学短期大学部	社会福祉学科	摂南大学	理工学部	関西大学	政策創造学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

関西大学	外国語学部	大阪観光大学	観光学部	関西学院大学	国際学部
関西大学	人間健康学部	大阪観光大学	国際交流学部	関西学院大学	教育学部
関西大学	社会安全学部	大阪学院大学短期大学部	経営実務科	関西学院大学	総合政策学部
関西大学	システム理工学部	神戸大学	国際人間科学部	関西学院大学	理学部
近畿大学	総合社会学部	神戸市外国語大学	外国語学部	関西学院大学	工学部
阪南大学	流通学部	兵庫県立大学	国際商経学部	関西学院大学	生命環境学部
阪南大学	経済学部	神戸学院大学	グローバル・コミュニケーション学部	関西学院大学	建築学部
阪南大学	経営情報学部	関西学院大学	神学部	兵庫医科大学	医学部
阪南大学	国際コミュニケーション学部	関西学院大学	文学部	産業技術短期大学	機械工学科
阪南大学	国際観光学部	関西学院大学	社会学部	産業技術短期大学	電気電子工学科
大阪経済法科大学	経済学部	関西学院大学	法学部	産業技術短期大学	情報処理工学科
大阪経済法科大学	経営学部	関西学院大学	経済学部	産業技術短期大学	ものづくり創造工学科
大阪経済法科大学	法学部	関西学院大学	商学部	島根大学	法文学部
大阪経済法科大学	国際学部	関西学院大学	人間福祉学部	島根大学	総合理工学部

【巻末資料：入学者選抜において総合的な英語力（4技能）の評価を導入している大学一覧】

島根大学	生物資源科学部	九州産業大学	国際文化学部
岡山理科大学	理学部	中村学園大学	流通科学部
岡山理科大学	工学部	活水女子大学	国際文化学部
岡山理科大学	生命科学部	尚綱大学	現代文化学部
岡山理科大学	生物地球学部	尚綱大学	生活科学部
岡山理科大学	教育学部	九州ルーテル学院大学	人文学部
岡山理科大学	経営学部	尚綱大学短期大学部	総合生活学科
岡山理科大学	獣医学部	尚綱大学短期大学部	食物栄養学科
ノートルダム清心女子大学	文学部	尚綱大学短期大学部	幼児教育学科
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部	立命館アジア太平洋大学	アジア太平洋学部
広島大学	総合科学部	立命館アジア太平洋大学	国際経営学部
エリザベト音楽大学	音楽学部		
広島女学院大学	人文学部		
福岡女子大学	国際文理学部		